(明治四十二年九月三十日第三種郵便物認可)
(年中無休刊)

京城日報

十二日夕刊

定價 本紙 一部金二錢五厘 一ヶ月金五十五錢 三ヶ月金一圓六十錢 六ヶ月金三圓七拾錢 (郵送料前金) ▲郵券代用二割増

廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢 ▲雜報欄內一行金壹圓貳拾錢 ▲指定一行金壹圓 ▲三號活字は二行五號活字同樣 ▲六號活字は五號活字同樣の事 ▲所の一

發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 小川三之介

京城太平通一丁目
發行所 合資會社 京城日報社
電話 (編輯用三三四番 營業用三一一二番 社長用三六五番) 振替貯金口座京城三六〇〇番

○日米と南洋占領諸島

日本は南洋占領島拋棄か=講和會議に於て山東省優越權要求說

東京の聯合通信社は先月十四日附の郵便にて次の如く米國に報道し來れり曰く「聞知する所に依れば日本は南洋占領諸島を永久に所有せざる事とし之を講和會議の要求條項中に加へざる事となれり該占領諸島は米領グアム島に接近するを以て米國政府は日本が之を永久に所有せざる事を希望し英國が日本と協同にて占領に與りたる所より米國は先づ英國政府に此の希望を通じ其の同意を得たる後非公式に日本政府に對して申出でたるものゝ如く日本は此の要求を容るゝ代償として多分東山省に於ける優越權の認識を講和會議に於て要求するものゝ如し」と(紐育電報)

○ウ井ルソン氏再選と得票

上下兩院共民主黨の勝利

ウ井ルソン氏再選せられたるは加州に於て決勝的勝利を收めたるが爲めなり得票は二百七十三對二百五十八と計算せらる上下兩院共民主黨の勝利に歸せり(紐育電報)

○夏外交次長辭表提出

閣員彈劾さる=支那紙は近く更迭と報ず

夏外交次長は彈劾を受けたる結果辭表を提出したり彈劾の趣旨は次長が國會に諮らずして全國の電話敷設權を日本よりの借款擔保に當てたりと謂ふに在り諸內閣員も各彈劾を受けたれば支那新聞は遠からず有力なる諸閣員の更迭を見るに至るべしと報せり(北京特電)

○李堈公御著釜

李堈公殿下一行十二日朝八時櫻丸にて釜山著鐵道ホテルにて御休憩夜十一時發列車にて御歸京の筈也(釜山特電)

□還幸は陸路に變更せらる

天皇陛下の還幸は豫定を變更し陸路を採らせらるゝに決し十六日關門御通過の由にて十二日朝吳鎭守府より九津見海軍大佐來門藤村港務官九州鐵道管理局員等と關門連絡設備の撿分を爲したり猶門司市役所九州鐵道管理局にては之れが爲め大多忙を極め居れり關門市民は御鳳輦を奉拜し得べしと欣喜雀躍せり(門司特電)

◎北滿の荒地承租

露人の巧妙なる獲得法

歐洲開戰後露國は其要する軍用糧食を北滿洲各市場に於て購買せるが其方法は多數の支那人を代辦者として八方に派遣し先づ現金十分の四を交附し之れに對しては擔保品を提供せしめ貨物授受の際に之れが清算を爲す事とせし處其後露人は該擔保品には北滿土地の荒照即ち荒地拂下證を以てせしめ荒照一井(一井は三十六方、一方は四十五坰)に就き英洋三千元宛を交附することゝせり元來北滿荒地は價格太だ低廉にて一井多くも一千元に過ぎざるに露人は之れに三千元を交附し結局時價に比し二千元の利益あるを以て奸商射利の徒は爭ふて黑龍省の拜泉、青岡等の荒局に就きて大地積の荒照を得之れを以て哈爾賓に於ける露國經理部に赴き露國の爲めに大豆、牛羊等軍需品の代辦者たらん事を請求すれば露官憲は彼等が誠實の代辦者たると否とを問はず直に毎井三千元宛を交附し最近其數已に一百五六十井に達せりと右は露人が昨年來實行しつゝある所にして支那官憲は近頃漸く注意を挑ふに至りたりと云ふが若し事實ならば誠に巧妙なる土地承租の方法と謂ふ可し(奉天)

◎鄭家屯の近狀

目下鄭家屯在留邦人は二百九名(此內朝鮮人百七名)にて事件當時に比し六十名を增加し視察者の入込み毎日二三十名を以て算す最初支那人は我軍隊の駐屯に對し猜忌猜疑の念深く又種々の謠言に動かされて白晝猶門戶を鎖すの有樣にて市況沈滯を極めしが其後我軍紀の嚴肅なるを知り且つ馬賊の被害の皆無となれるに深く我軍隊を德とし自ら進んで日本人との握手を求むるに到りたるを以て市場漸次恢復して蒙古より來る牛馬の如き毎日數百頭に上り又奥地行きの雜貨も續々搬出されつゝあり猶市內の秩序は憲兵隊によりて保持され去る八月知縣の請ひによりて巡警を試用し十月初旬よりは商團貳百名をも試用して一時間半毎に憲兵一名に巡警一名團丁五名を附して巡察せしめつゝあり(四平街)

◎京城府の緊急施設事項

來年度の豫算に關する計畫

京城府及び京城學校組合の大正六年度豫算案が目下各係主任の手許に於て調査中の由は十日夕刊所報の如くなるが更に同豫算と關連して來年度或は近き將來に於て府及び組合が必ず施設を要する緊急の事項二三を揭ぐれば府及び組合廳舍の改築市場統一、屠場統一、技藝學校組織變更等を數ふべし

▲廳舍の改築問題 府は曩に學校組合を併合してより前後二回の增築を行ひたるも京城府の發達は勢ひ取扱事務の繁劇を來し今日にては府尹以下二百名に餘る職員を收容するの盛況なり然るに其後人員の增加を來したるため廳內の各室共鮨詰の光景を呈し爲めに廳舍の擴張は目下の急務となり居れるも增築か改築かの兩案尙未定のため荏苒今日に及べるも急を要する爲め最近には改築斷行說有力となり其計畫は約二十萬圓の工費豫算を以て敷地は本町署の移轉を交渉し學校組合會議場を併合して之に充て鮮銀及び京城郵便局と對立すべき二階建の廳舍を設けんとするものなるが果して來年度より着手するとしても而して財源を何れに求むべきか其點迄は未だ決定し居らず

▲中央市場の新設 多年の宿案たりし府內の屠場統一は此程漸く實現し其結果府は來年度より年額約三萬圓の手數料を收入することゝなれり京城府にて徵收する牛一頭の屠殺手數料を他に比較する時は頗る低廉なるを以て若し將來値上を行はゞ更に此以上の收入を得べしこれと共に市民の衞生保健上最も大切なるは食糧品物市場の改善なりとす此點に付ては府も亦兩三年以來研究を續け來りたるが府內に在る數個の市場は何れも營業認可期限の非常に長きものゝみにして今日俄かに如何とも爲し得ざる事情ありしも幸ひ來年度に至り營業認可の期限滿了する一二の市場あれば此機會に於て府は市街の中央に模範的の市場を設け追ては水產、青物、食料品等各種市場をも之に合併して衞生的設備の完全を計ると共に府民の便を圖り他面には一定の使用料を徵して府の財源たらしめんとの計畫を立て昨今內務係に於て調査中なるが位置の選定に就ては現在の技藝學校及び消防隊附近一帶の地を豫定され居れり

▲技藝學校の擴張 京城高等女學校は現在六百餘名の生徒を收容し居れるも松永道長官の意見として今後は最大限度を五百人とし入學志願者に對しても充分身分の調査を行ひ卒業に至る迄體力と資力の繼續するものを入學せしめんとするなれば今後志願者增加と同時に不合格者も增加すべく是等は他の方面に向つて就學せざるべからざることゝなるべし從來多くは府內の裁縫學校又は自宅教授所に就て修業するもなるも教師の資格設備不充分のため良好の成績を收め得るもの極めて尠し斯の如くなれば學校組合議員中には府立技藝學校の組織を變更し實科高等女學校の內容を整へ現在の中等夜學校を全廢し技藝學校を專門に經營し本科及別科の兩科を設けんとする意見を持つもの多數を占め之に要する費用は現在の年額千二百圓の補助金を三千圓乃至三千五百圓に增額し別に校舍の移轉擴張を行はんとする計畫なり校舍の移轉地としては元明治町の善隣商業學校跡を物色し居れども未だ決定の運には至らず

◎原蠶種製造所新築

京畿道の原蠶種製造所は從來金谷に存在したるも近來道內蠶業の發達普及に伴ひ規模の一大擴張を要するものありとし此爲道當局は一萬四千餘圓の工費を投し東大門外淸凉里に新工場の新築中なるが近く其竣工を見るべしと落成の上は管內に於ける蠶種製造人約四十人の必要なる原蠶種を製造して之を供給することゝなるべく既に來春蠶期用として千六百枚の原蠶種外に三千枚の普通蠶種を製造したりと

◎馬養島捕鯨狀況

成鏡南道新浦沖東洋捕鯨株式會社馬養島作業所にては客月十五日より作業を開始し捕鯨船數隻を以て漁撈中なりしが本月四日までに鯨九頭を捕獲したりと

◎上林道長官

入京滯在中なる上林忠南道長官は愈十三日朝南大門發列車にて歸任す可し

觀戰行

博多驛前より(第五信) 金谷生

○福岡到著の八日の夜は秋雨を衝いて市中を見物いたし候。博多驛頭には見上ぐる許りの奉迎門に電燈裝飾の光輝螢の如く、那珂川の流れは不夜城の街を影して大本營附近の夜景畫の如くに候。

○街上の自動車は總てこれ軍人ならぬはなく腕車の客も亦參謀肩章の將校及びフロツクコート絹帽紳士多く候。

○「博多帶しめ筑前しぼり……」博多氣分は此の歌に盡くし居り候。「あの灯の見ゆる洋館な、ワルデツクが居ましたタイ」指さるゝまゝに港頭を望めば千有餘年の對外貿易港たる博多の歷史はフイルムの如く彷彿いたし候。

○九日は朝から大演習統監部に召集され夜はまた福岡縣市聯合主催の從軍記者大歡迎會これあり候。

○餘興の筑前琵琶と博多節は有繫に本場のお手のものに候へ共美人も亦九州第一の由に候。これでは元寇が來襲せしも無理からずと存ぜられ候。(九日夜)

◎德富監督歸東

入京滯在中なりし本社監督德富猪一郞氏は十三日午前八時三十分南大門驛發列車にて歸東の事となれり

◎阿部社長轉居

阿部本社々長は十一日仁寺洞の宅を引拂ひ旭町百三十番地に轉居したり

◎山崎源一郎氏歸國

十五年間朝鮮新聞の編輯に從事し在鮮新聞記者間の古參者なりし日城山崎源一郞氏は眼病の爲め遂に明を失せしより今回歸國する事となりたり氏の鄉宅は横濱本牧三溪園村田直吉方なりと

元山

▲大典記念事業 元山府に於ける御大典記念事業中に元山水力電氣會社より米國に器具注文中のところ目下戰亂の影響に依り意の如く進捗せずと雖も注文後既に久しきに亘れる事とて最早遠からず荷著の上之れが施設を見るに至るべく一方水道飲用栓は道市及び近市の二箇所に設置し去る二日より自由飲用を開始したり ▲元山近海終漁 今や元山近海に於ける漁業は一般に終末期に入れるものゝ如く僅かに水產會社及び淺井組の兩漁場より日々少數の水揚げを見つゝあるのみなれば今後元山地方の需要魚類は例年の如く江原道竹邊江陵方面又は釜山地方より搬入せざるべからず ▲大豆と綿布 元山地方大豆及び綿布の商況を聞くに大豆は主として滿洲銀相場の昂騰に基き內地市場よりの買付好況を呈せる爲め氣配漸く昂り前月に比し相場は三十錢高を示し綿布類は原綿及び原糸の暴騰に依り逐日高値を唱へ昨今は前月に比し二三十錢方の昂騰を來せり

安州

▲先月中重要輸入品 平安南道安州邑內市場十月中重要輸入品は紡績二百個一六〇〇〇圓木綿五〇個五〇〇〇圓粗布一五〇個二五〇〇〇圓石油三〇〇箱一六〇〇圓天竺五〇個一〇〇〇圓卷煙草二〇〇個六〇〇〇圓等なり ▲安州經濟狀態 十月中平安南道安州郡經濟狀況は當月は輸移入雜貨取引の季節なると前月下旬より大阪市場の紡績金巾木綿類の相場日々強昧の氣配ありたるため之れが仕入を急ぎたるものゝ如く十月に入り雜貨の輸入大に增加せり隨て新安州及び安州城內共金融も活況を呈せり又市場取引も九月に比し大に增加を示せり金利の如きは引續き大口に於て一步四厘を唱ふるに至れり平安農工銀行安州支店十月末帳尻九月末に比し貸出に於て六千三百圓を增加し預金に於て九千六百十圓を增加せり因に同支店十月末預金總額六三六四四圓貸出四三七五八圓なり

群山

▲前月檢米 群山米穀檢查所に於ける十月中檢米狀況を聞くに優等二千二百十三叺上格二百六十叺下格一萬四千八百六十四叺輸出禁止九百三十一叺受檢人員百八十二人にして不合格品は總て夾雜物混入過多の理由に依り輸出を禁止せるものなりと亦た同檢查所金堤出張所に於ける客月檢米成績を聞くに優等五十一叺上格三百十四叺一萬一千五百三十三叺人員二百三十三人に達し金堤より各地に仕向られたる檢米は木浦大阪に三百四十九叺を直送せるの外は全部群山より各地への輸出別を揭ぐれば大阪二萬四千四百九十四叺東京六百六十叺神戶一千四百九十五叺釜山五百九十七叺仁川五百二十二叺等なりしが前記群山米檢所取扱に係る昨年同月中の檢米の總高は四萬四千百四十六叺に達し本年客月の總檢米數量は一萬八千二百六十八叺にして前年同月に比し二萬五千八百七十八叺を減じ居れるが此れが原因は天候の不順なりしと水害の爲め例年に比し秋收期の一般に遲れたるにありと

木浦

▲魚市場水揚狀況 十月中の水產會社魚市場の水揚狀況を聞くに秋漁最盛季に際し惡疫流行一般需要減退の爲め價格も前月より更に一二割方低落し入船數も漸く減じつゝありし所月末に至り稍恢復し煎子鰮の好氣配と共に前年同期と大差なき成績を擧げ五千七百四十二圓入船數五百七十五隻なりと ▲客月稅關收入 十月中に於ける當稅關支署の關稅其他收入を聞くに酒稅四百七十四圓移出稅九百九圓輸入稅三百二十二圓移入稅一萬一千四百五十二圓噸稅百六十七圓諸收入二百七十四圓合計一萬三千五百九十八圓にして之れを九月に比すれば七百七十三圓の減少なりと ▲客月生牛移出 十月中に於ける當港生牛移出高は四百七十一頭價格一萬一千五百六十二圓にして九月に比し百十頭二千九百七圓の減少なりと ▲繰綿初移出 南平德珍工場にては去る三日當港發の神代丸にて繰綿三十二袋五千七百六十斤を大阪に向け移出したるが之れ當港本秋に於ける繰綿の初移出なり ▲重要問題協議 例の重要問題は特殊の方面より新消息を齎らし來り急に展開の趨勢となれるより橋本府尹は四日午後二時福田會頭其他數氏を府廳に召集し凝議する處ありたり

光州

▲光州水道消息 光州水道は來年度より著手さるゝは既定の事實なるが先般來木浦水道設計者原工師は道廳に於て之が設計準備中にて本年中に一切の準備行爲を終り年度替りと同時に起工するに到るべしと ▲順光道路一部竣成 光州順天間第四工區落成したるより十一月之が檢查の爲め道より技手出張の筈 ▲棉花密賣問題 棉花の出廻り遲々たるは既報の如くなるが之は內部に密買者ありとの風說立ちたる爲め木浦三棉工場にては大いに狼狽し之が取締方を道廳へ請願せしより道廳に於ては羅州光州和順務安の各郡主任書記を召集し八日之が取締方に就て打合會を開きたり ▲植林獎勵 本道に於ては植林獎勵の爲め確實なる造林計畫者に對し栗外十六種の苗木百八十八萬六千本を配付する事となり今般各郡に向け之が調査方を命じたり ▲浦野部長巡視 浦野部長は近く管內巡視を爲す筈 ▲井崎院長來光 井崎濟州慈惠院長は八日來光二三日滯在道廳と事務打合の筈

大邱

▲邱安間橋梁架設工事 大邱安東間道路橋梁架設工事は本月一日より著手せられたるが此の工費總額二萬五千圓にして大正六年三月頃迄には竣成すべしと ▲米穀檢查成績 慶北道穀物改良組合檢查所に於ける十月分檢查成績は金泉七、一四一叺を最高とし外六箇所にて總數二一、一六三叺にして大豆は倭館の三五、六三三叺を最とし外六箇所にて七二、三五七叺なり ▲庶務主任會議開會 豫て延期中なりし慶北道府郡島庶務主任會議は來十二月五日より三日間道廳樓上に於て開會すべく決せりと ▲府區域擴張 大邱步兵第八十聯隊營舍及び將校宿舍は大邱府に接續すれども府廳に建議せしに付將來軍隊移轉兵舍落成及び道路の完成に連れ兵營地と府と接續すべく其他種々の點に於て不便少からざる爲め前記兵舍新築中なる達城郡壽城面鳳德洞及び將校宿舍建設中なる同面明洞の一部を大邱府管內に編入すべく當府より六日付總督府に宛區域擴張を申請中也因に同總坪數四十七萬七千五百坪也 ▲大邱貿易額 釜山稅關大邱出張所に於ける貿易品中輸移出品は牛皮外三點合計一萬六千三十六圓にして輸移入品は金巾外三十一點合計廿七萬六千四百七圓なり因に之を前月中に比ぶるに輸移出にて約二千圓輸移入に於て約四萬圓の增加を見りと ▲鈴木慶北道長官歸任 地方重要物產品評會並に一般事務檢閱の爲め二週間の豫定にて出張中の本道長官鈴木隆氏は都合により九日一先づ安東より歸廳せられたり ▲龜尾郵便所設置 停車場新設地たる京釜線龜尾にては來る十一日より郵便所を始設し郵便電話の取扱を爲す筈なり ▲金融組合會議 虎疫發生の爲め豫て延期中なりし慶北道各地方金融組合理事會議は來る十二月十一日より三日間本道にて開催すべく決せり

人事消息

▲長尾戒三氏(檢事) ▲伊藤孫太郎氏 ▲大宅伊敏氏 ▲竹尾義磨氏(以上判事) 十二日朝入京不知火へ
▲賀田金三郎氏(皮革會社員) 十二日朝退京
▲城岡彥氏(藤田組技師) 同上
▲朝倉外茂鐵氏(辯護士) 十二日滿洲より歸京
▲小栗憲兵大尉(龍原分隊長) 十一日夜入京楠光館へ
▲京城高等女學校職員生徒 四百二十七名十一日午後開城歸京
▲米倉豊太氏(大邱農學校教諭) 外同校生徒三十名十一日午後出發大邱へ
▲大分縣立農林學校職員生徒 二十九名十二日午前水原へ
▲岡本惠三郎氏(開城警察署長) 十二日午前入京同日永登浦へ
▲教員養成所職員生徒(京城高等普通學校) 二十七名十二日午前沙里院へ

山路愛山著 新刊發賣
支那論
四六版 三百卅頁 定價六十錢 郵稅六錢
支那の將來は如何。是れ何人も知らんと欲する所にして、何人も未だ明に語る能はざる所に非ずや。著者、袁世凱歿後の支那が紛々擾々として其の形勢の揣る可からざるを見、世界に於ける日本國民の見地に立ち、殷盛の史筆を揮ちて現代支那の形勢を縱橫評論したるもの、即ち本書也。是れ實に支那の眞相を解す可き唯一の指針にして併せて其の將來をトすべき無二の鍵と云ふ可く、正に現代支那に關する評論中の最高權威たり。本書別に附するに『代議政體と支那』『支那成功論』の二篇を以てし、且つ卷首に『與黎元洪書』の一章を、卷末に阿片戰爭以後最近に至る詳細なる年表を附す。苟も現代支那に關し最も明確なる概念を得んと欲する者は、何人も先づ本書に就かざる可からず
發行所 東京京橋區日吉町 民友社
賣捌所 京城太平通二丁目 京城日報代理部 電話六六〇番 振替京城三〇〇番

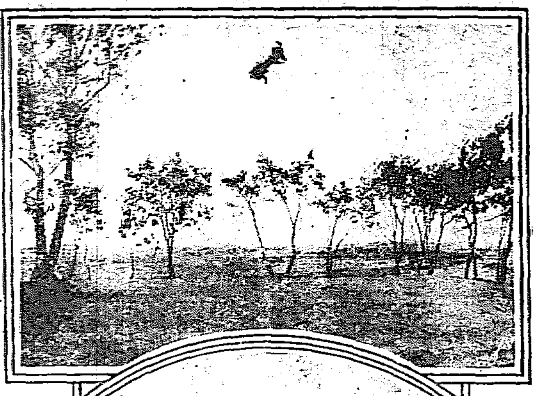
フランネルのシヤツ
毛か綿か?
毛も少しも要らぬ 理想的逸品
キツト あなたの御氣に召ます
登錄商標
潮谷商會 大阪

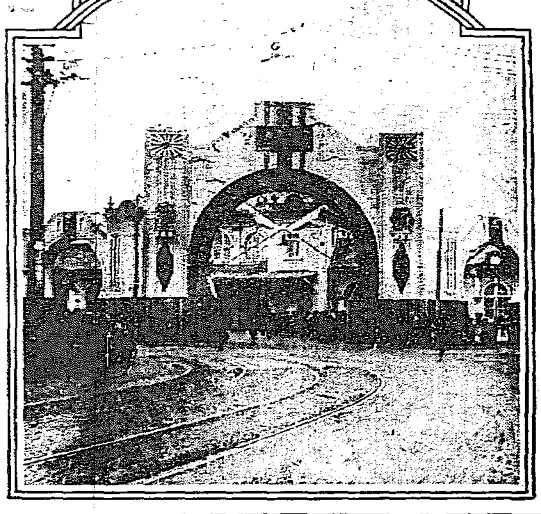
越後名產
越後の御進物には名產越後の……
本場の直輸入 ……

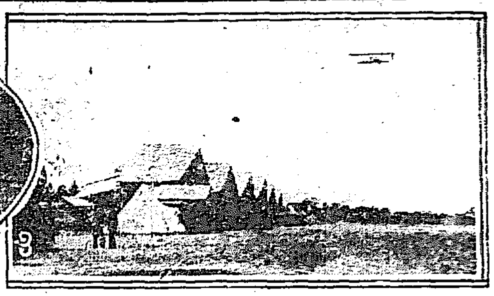
瀨戶外科皮膚科醫院
旭町二丁目(舊三丁目)
醫學士 瀨戶潔
(電話二四九八番)
診察夜九時まで

ゴンサルボン GONSALVON
內服治淋劑として其効果を公認せられたる白檀油と化學的に集成を等ふし治療的効果白檀油と相伯仲し殆んど消化障碍なき特徵を有す
本邦產植物より發見せる純內國產なれば價格低廉なり夫故に本品は最も優秀卓絕なる
白檀油の代用
として好評嘖々たり
文獻見本醫家に限本社より進呈
大阪市外中津町光立寺 製造元 三友製藥合名會社
特約店 大阪道修町 武田長兵衞 東京本町 小西新兵衞

(列車時刻表 [illegible])







大演習寫眞畫報
（一）十一日御野立所朝日山
（二）博多驛前の奉迎門
（三）南軍飛行根據地（久留米練兵場）
（四）十一日行在所鳥栖小學校
（五）北軍飛行根據地（福岡和白野）

陸軍特別大演習

▽颷々たる烈風の中に

龍顔麗しく軍を覽はし給ふ

天皇陛下には十一日午後三時廿分鳥栖驛著御同驛の西方一里なる朝日山御野立所にて親しく演習御統裁遊ばされたり御野立所は脚下に遠く肥筑の平野展け一條帶の如き筑後川の流を隔てゝ寶珠山と相呼應する所江山緒の如し、折柄御野立所の栗林を掠め去る秋風は金色燦然たる天皇旗を翻し久留米平野を蔽ふ細雨煙るが如し　陛下には颷々たる烈風の裡に立たせられつゝ伏見、閑院兩宮を初め上原參謀總長長谷川總督を召されて親しく軍を覽はせられたるが恰も南北兩軍の飛行機は御野立所近く上空を掠めて五機互に入り亂れつゝ飛翔し秒速二十六米突の烈風を物ともせず壯快猛烈なる空中搏擊戰あり此の間筑後川を挾みて南北より迫りつゝある兩軍の戰闘は逐次久留米附近に集中し來りたるが暮色漸く平野を包みたるを以て午後五時南部漸々として御還幸同夜は息伏き鳥栖小學校に御假泊遊ばさる沿道は木葉紅葉せる野道には拜觀の赤子堵を爲し燦然たる天皇旗の過ぐる所眼目合掌せる老翁あり（十一日午後七時五十分鳥栖にて金谷特派員發電）

▽拜觀者數十萬

鳥栖附近に於ける演習拜觀者は數十萬を算し就中學校生徒最多數なり（十一日午後七時五十分鳥栖にて金谷特派員發電）

▽御前講演

田中中尉の感泣

朝日山御野立所にて御前講演の榮譽を擔ひたる田中豫備役歩兵中尉は龍顏に咫尺して親しく現地講話を申し上げたるが　陛下には中尉の側近く進ませられ『彼れが高鞍山か』と御下問あるなど大御心いとも畏く卑賤一中尉の身を以て此の光榮に浴せるは一門の譽之れに過ぎたるはなしとて御野立所の秋雨に濡れつゝ感泣せり（十一日午後七時五十分鳥栖にて金谷特派員發電）

▽鵬翼交々

亂れ飛ぶ

井口北軍々司令官麾下の飛行機根據地は九鐵古賀驛に近き筑前粕屋郡席內村にある、土地は鐵道線路に近き田の中で面積は約五町歩ばかり何分中には畦路などもあるから八臺の飛行機で順次に

▲離陸する　のは相當に骨の折れるらしい、飛行場の準備は既に十月廿七日頃から著手し六日全部の組立を了つて其の日と翌七日と兩日試驗飛行を試みたが何れも好成績を收めた然るに八日には加藤正中尉操縱の三十七號機が飛行場東南端の花鶴川に墜落推進機を折つたけれども殘りの七機の外に久留米にある豫備飛行機で間に合せるといふ、格納庫は何れも間口八間奥行五間の

▲天幕張り　で飛行場を間に四棟宛相對して建つて居る、天幕は何れも一號から八號まで數字を記し中には隊長益田少佐以下第一中隊長德川大尉、第二中隊長伊藤大尉を始め眞壁、坂本、新山、坂口、加藤（正）、足立、瀧川、益滿中尉が働らいて居る、猶ほ日々の入場者は非常に多く九日まで既に五萬以上に達した、七日八日は數臺の飛行機が福岡の空を入り亂れて飛んだ

▽鳥栖の盛觀

鳥栖御假泊所の周圍は煌々たる電燈白晝の如く同町住民は無上の光榮に歡喜せり（十一日午後七時五十分鳥栖にて金谷特派員發電）

▽大元帥陛下第二日御觀戰

聖上陛下には十二日午前八時鳥栖行在所御出門演習地に臨御同十時三十五分鳥栖驛御發車同十一時二十五分博多驛御著、大本營に入らせらるべき旨仰出さる（十二日午前五時金谷特派員發）

▽曾根崎の御野立所

第二日の御野立所は鳥栖驛を二十町距れる曾根崎にして同地は承平役に聞えし古戰場たり前面には筑紫の大平野を一眸に望みて眺望絶佳なり（十二日午前五時金谷特派員發）

◆陛下行在所の供御

陛下福岡市行在所御駐輦中御食料は概ね左記の品々を召させらるゝやの由に洩れ承る

御和食料の品々

東京より御持越の品　味噌、醬油、鰹節、昆布、鹽、砂糖、味付用日本酒、葛、紅、ザラメ砂糖、梅干

梅干は毎朝御常用の由に洩れ承る

縣內の生產品より御食料として御用ひ在らせらるゝやの品々　スツポン、鯛、燻肉、葱、大根、甘芋、小松菜、柚、サヤエングン、小豆、鮎、果物（ハガクシ）（特派員發）

聖上、總督を召して

有り難き御言葉を賜はる

兒玉內閣書記官長謹話

入泉中なる兒玉內閣書記官長は　聖上陛下が御平常御心を我朝鮮半島の上にかけさせ給へる事に就て謹話して曰く

畏くも　聖上陛下には長谷川元帥を朝鮮總督に任ぜられ親任式を行はせられたる後新總督を御前に召され朝鮮統治に關して又鮮民愛撫の事に就き樣々と有難き御言葉を賜り且つ　陛下には東宮に在はせられたる時朝鮮を御巡視遊ばされし事とて何にかに就きて御親みを有たせられさま〲朝鮮の御物語りの末新總督に向ひ朝鮮に赴任せば折々新鮮なる果實と野菜とを送り奥れよ朝鮮の果實と野菜とは味鮮美なりと仰せられたりとの事なるが寺內前總督も折々果實と野菜とを獻上申上げたる處毎に　陛下の御賞美に預りたりと

◉伊勢進水

稀有の盛況

十二日朝川崎造船所にて日本最大の軍艦伊勢の進水式を東伏見宮殿下臺臨の下に擧行せり天氣晴朗にして豫定通り無事行へり觀覽者五萬稀有の盛況を呈せり（大阪特電）

▽將帥のお宿訪問記

何れも御多忙—とり〲の面目

□大山元帥

『何でもヨカ……』

西中洲の榮屋旅館、波多野宮相、野田大塊と同宿である、女中さんの曰く『大山さんな、御食事は「何んでもヨカ」と仰しやります、お落きになると新聞ば見て、靜かに椅子に腰かけとりなさいますバイ……』

□長谷川總督

宮樣のお宿へ伺候

福岡で一番大演習的氣分の漲る大本營附近天神町の大野仁平氏の邸は堂々たる門構へ、玄關には長谷川元帥御用、森海軍武官御用と記した數臺の俥がならんで大きな長靴が二三足ぬぎすてゝある、長谷川新總督は今し博多驛から著かれたばかりでこれから散髮して宮樣の御宿に伺候するといふところ副官大島歩兵大尉のおはなしによれば總督は平素頗る規律的な生活で朝は毎日午前六時起床道樂としては馬が大好き次は碁を圍む位のもので何んでも軍事が一ばん熱心で且興味を有て居られるとの事

□寺內首相

奉迎のお留守中

寺內首相の宿は濱の町にある、家は貝島炭坑王の姉さんにあたる原氏の邸、廣い屋敷の裏手には蒙古襲來當時からの濤の音が聞ゆる、門には國旗と日の丸提灯が明々とついて長い植込みを行くと紫の幔幕を吊るした玄關には執事の人が『左樣然らば』と控えて居る『閣下は先刻佐世保に向はれました、陛下の奉迎でございます』この切口上、奥の方には甍のやうな電燈の煌々たる下を紫色の裾模樣をつけた令孃が二三人通る、廣い表庭には菊の花壇に電燈が明々ととも（も）つて居た

□秋山軍司令官

作戰の研究に

黑田侯の大きな門から四五軒西側の會社員眞龍吉氏の邸、將軍は今し和服姿で博多人形の品定め中、副官竹內中佐は統監部からの電話にかゝりながら『モシ〱、陛下佐世保御著艦、十日午後四時、ウン〱承知した……』となか〱忙がし相、其處へ此の家の令孃が菓子盆を捧げて非常に手數な出し方をする、統監部からの使者は大きな袋を持つて來る將軍は中佐と共に大演習の一般方略及び兩軍の作戰を研究に耽られた

□立花師團長

七時の御目覺め

これも濱町に近き呉服屋川野屋の奥座敷、老舖と見えて店の半分以上は金屏を奥まで立てつらね下には毛氈をしいて大歡迎、どの座敷も明るい電燈が光氣煥發しつゝある、此所も亦美しい令孃や夫人總出の歡待ぶり『奥樣のおはなしによれば閣下は至つて快活な方でお食事なども何でもよいと仰せられます、朝は毎日七時にお目覺めになります……』

□古海中將

お酒も甘いものも

西中洲中尾酒屋で大山元帥の旅館榮屋と相對して居る、門には古海中將御宿と記した大きな白木の標札が掛つて玄關にはピカ〱の金屏風を立てゝある、そこへ奥樣が出て『閣下は御酒も甘いものもお召になりません、下の座敷が御便利かと思ひましたが二階でもよかと申されますけん二階に致しました……』（十日夜特派員記）

雜囊（九州大演習雜觀）

△這回の九州大演習には南北兩軍が福岡平地及び久留米平地に於いて壯快なる大會戰を試ろみ猶ほ兩平地間を扼す太宰府の天險が兩軍の爭奪地點であらうとは一般の豫想であるが從つて大元帥陛下の大本營が置かれた福岡は觀戰者にとつて尤も便利な地點となつた

△福岡大本營は西中洲の福岡縣廳內に置かれ周圍は一面の幔幕で圍まれ唯一つだに見せぬ滿をしさ、さすがに日本一の縣廳として誇るだけに石造殿の新築は頗る宏壯、畏くも　陛下には大演習御統裁の五日間を此所に行在遊ばさるゝのである

△福岡市中の奉迎門は博多停車場前と大本營側の天神橋畔に建てられ夜は電飾の光輝燦然を歎く壯觀を呈して居る

△福岡博多兩市の間を流るゝ那珂川では十一日及び十五日の夜煙火を打ちあげ猶は十二日及び十五日の夜は福岡工醫兩大學生を始め中等學校小學校生徒二萬餘人の大提灯行列を行ふ

△閑院大將宮殿下は九日午後御著になつた、伏見元帥宮殿下も十日松島屋旅館に成らせらる

△元帥には大山、奥、井上、川村三閣下を始め大島陸相、加藤海相、出羽海軍大將、中村關東都督、安東臺灣總督等の將軍が福岡市中に一時に集まつた

△朝鮮に關係ある將軍では長谷川新總督が天神町の大野仁平氏方に入り寺內首相が十日午後濱町原田次郎氏邸に投じ其の他秋山軍司令官は濱町眞野氏方に立花師團長は本町川野氏方に古海軍武官は天神町の岡田氏邸に在る

△それに前朝鮮駐劄軍司令官たりし井口中將の率ゆる北軍は小原中村兩閣下の廣島第五師團と柴五郎中將の率ゆる小倉第十二師團これに隸屬し前者は舘方少將の廣島旅團と佐藤少將の山口旅團とで福岡に著くまで機動演習を續行し、今し北九州の某地點に片唾をのんで命令の一下するを待ちつゝある

△また大迫大將麾下の南軍は近く青島攻圍戰の經驗ある柴勝三郎中將の久留米第十八師團とこれに朝鮮と關係深き明石中將の熊本第六師團が加はり前者は大村の佐藤旅團と久留米の山田旅團、後者は熊本の岡崎旅團と鹿兒島の權藤旅團である

△猶は大演習の人氣物たる兩軍の航空隊飛行機はそれ〲拾翫殖のモーリス、ファルマン式（一千九百十四年型）が參加し北軍は筑前粕屋郡古賀驛附近に根據地を置き南軍は筑後の久留米に根據地を有し何れも多くの新飛行機に對し試驗飛行を試みた

△いよ〱演習は十一日から、市中は何處も演習氣分が磅礴たる光景である（九日夜特派員記）

△福岡は八日も九日も今日も引つゞき雨々々！朝鮮から來ると雨の多いことが殊に印象深く感ぜらる

△十日は福岡大本營に入らせらるゝ大元帥陛下の鳳輦を拜觀せんとて博多の宿は村盛村姫でギツシリのお客樣、中には大本營の正門で拍手をうつ、お爺さんがあつた

△福岡の人は皆元冠をたゝき斷つたやうな顏つきで居る『天子樣のござらつしやらうチウのにまあごうぢやらうかい……』とは電車の中でのはなし　此の雨はなんごこかい

△雨のふる十日の正午過ぎにはまた伏見元帥宮殿下が御著になる　寺內首相が京城の街で見たと同じ姿で自動車を驅る、驛の前には雨をものともせぬ學校生徒が悲しく宮樣を奉迎申しあげた

△大演習の統監部は大本營前の三層樓福岡市の商品陳列館である、大本營側に畏れ多いとて幔幕を張つてあるが、建物は新築の壯麗を極めたもの、下には星章を附けた陸軍の自動車が何臺もくならんで居る、夜はまた天神橋あたりから那珂川にうつる灯火が畫のやうに美しい（十日午後二時於福岡）

◉溺死　平南平原郡海蘇面松井里金正塩（十三）は六日自宅附近溜地に過つて墜落溺死せり

開城名所觀覽　京城高等女……一日來著名所古蹟を觀覽何れも翌日……

……と云ふ……地を荒したる前科三犯の大……は十一月十七日鎭南浦久原精鍊所築……

入港高麗丸……等客……

【課題募集規程】……の洋紙一枚毎に紙上の雅號……

天氣　曇り後晴れ

內科　胃腸病科　診察夜九時迄
京城本町一丁目　石川醫院　電話二七二九番　一三九〇番

榮養ヲ增進シ　精力ヲ旺盛ニス
グリコナール錠
本品ハ醫學博士佐伯矩先生ガ創製セル榮養劑ニシテ五〇%ノグリコゲーント蛋白脂肪、越幾斯分ノ適量ヲ含有ス
一般虛弱、心臟機能衰弱、胃腸病、結核其他慢性病者等濃厚滋養料ノ充足ヲ要スルモノニ對シ榮養ヲ增進シ精力ヲ增加ス
賣捌全國ト各藥舖ニ有リ說明書進呈ス
東京室町　三共株式會社

御待乘の　稻荷座落成　愈々開場
愈々晩秋の候各位益々御隆昌奉欣賀候陳れば弊座事先般來新築工事中の處御庇を以て愈々落成來十二日より十九日迄八日間初興行として東都にて大好評判の
三升家紋右衛門（外數十名）
顏揃ひの大一座を招聘
◆落語芝居喜劇◆
◆所作事諸藝◆
狂言毎日差替杵屋女連出はやし相勤め可申候御散步旁々賑々敷御來觀被下度伏して願上候
京城本町五丁目　稻荷座座主　敬白

◎最良髮油　いづゝ油　正味に付て
近來類似品あり御仕入れの際登錄商標に御注意願上候

罐詰.瓶詰包裝體裁
（罐詰瓶詰實寫縮圖）

いづゝ油
本舖　東京日本橋區堺町　井筒屋香油店
支店　大阪東區南久寶寺町　藤森源之助（電話南一八七九番）

……時臨時列車にて歸途に就き…… 小學校生徒は十日同女學校生徒は十……

……仁川 指紋を取り司法省へ照會したる結果 山崎敬一とは僞名にて足立萬吉（二三）……

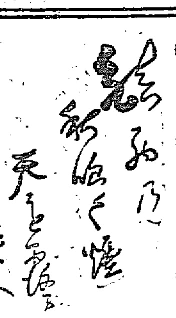
◉京城高普生徒の見學 京城高等普通學校教員養成部生徒見學團の一行……

◉連絡船上陸客 十一日釜山 ……中村十郎、渡邊千代松、寺田一郎、外人三名（三等百六十七名）

◉工場でも盛に拵へるちやたう

大塊翁縱談

東洋拓殖會社副總裁をやめて飄然郷里福岡縣に歸つた野田大塊翁は昨今博多東中洲の紫屋旅館に滯在中である、九日の午後訪問すると翁は例により巨きな身體に▽葉巻を燻らせつゝ「京城からやつて來たか、そりやあ良エこつ内地に來て見ると朝鮮が懐しいなう朝鮮から歸ると一時別府の温泉に行つちよつたが此の朝日に貝島炭鑛王が死んだので七日までは直方の方に行つちよつた、京城には此の十五六日頃チョイと往かうと思ふが久しぶりに此處さん來ちよるさ行かうてと無か、見らるゝ通り門司から▽福岡迄の工場はドシ／＼出來よる、土地はモウ何處も工場建築の豫定地に買占られて居るが久原などは大した土地を買ひ占めて製鐵所を建てる相な、この分で行くとあべこべに朝鮮から人夫の移民せんならんと思ふ政友會あたりでも農村の整理を云ふとるがそれよりも百姓を少なくして一人の▽百姓に廣い土地を有たせるがよかごとあるそして工場でも盛んに拵へるちやなう、現に枝光の製鐵所で二萬人以上の從業者があり貝島のみでも一萬以上の人を使つちよるが將來は大工業が起るぢやらう、石炭も値段が騰つて三池で噸八圓位のもする、今年は九州には金ができる筈、▽來年は千五百萬噸以上になら、[illegible]千二百萬噸、三池二百五十萬噸らう、私どん[illegible]いとる許りけいど大きいたあ聞くとたいワツハツハ、に寺内さんな十日にござらつしやらう、立花中將にや昨夜逢うて談たい、今日は秋山、古海中將と枝光の製鐵所さん行かれたやうぢやな」



◉庭前で記念撮影

兒玉伯夫妻送別會

目下滯京中なる兒玉伯夫人さは子の送別會は愛國婦人會朝鮮本部の主催にて十二日午後一時より京城ホテルに於いて開催したるが主人側には同會顧問芳賀總督府醫院長夫妻を始め百二十餘名の名流婦人、同會相談役荻田、入江、郡山の三氏大橋幹事等にして食堂前庭にて記念撮影を終るを待て伯夫妻を始め一同著席するや芳賀院長起つて一場の挨拶を述で右終るや兒玉伯之れに答へ食堂を開きそれより餘興に移り午後四時散會せり

新小說豫告

怒濤の月

小林蹴月作 武内桂舟畫

同情すべき處女の貞操、憫むべき青年藝術家の意氣、放縱なる貴族の歡樂、我慾一點張の事業家の魂膽、以上は即ち此の『怒濤の月』の主材となつて居るのです。重疊の波瀾、天來の奇筆、恐らくは我が讀者をして痛快を叫び、手に汗を握らしめずには置かねだらうと思ひます。加ふるに、插畫は現代風俗畫家の第一流武内桂舟畫伯が高邁颯爽の筆に成るもので、是亦錦上花を添ゆるの感あるは疑ひなき所、敢へて愛讀を願ふ。

◉小兒腹を轢る

十一日午後四時三十分頃京城竹添町三丁目荷馬車輓文景學（三二）が石油二十餘箱を積載したる馬車を曳き黄金町三丁目を光熙門方面へ向け通行中鍾路二丁目許春三の三男三奉（六）が積荷の横手なる繩にぶら下り串戯半分に曳摺られ行きしに件の繩が切斷したる爲め前後兩輪の間に墜落し後輪にて腹部を轢かれて即死せり急報に接し本町署より係員警察醫出張檢視の上死體は家族へ引渡し景學は取調の上一應放還さる

◉僞證事件控訴

去る九日釜山地方法院に於て判決言渡ありたる釜山瓦斯電氣株式會社敷地に係る僞證及び文書僞造事件の被告人中無罪の言渡を受たる東萊監理李明翔及び裴局善に對し窪田檢事は控訴を爲すべく又た有罪の宣告を受けたる扇茂吉及び小川定吉は十日控訴を申立てたり其他有罪の判決を受けたる日野村、鄭等は何れも控訴の申立を爲すべしと（釜山）

◉長崎寄港開始

朝鮮郵船會社の長崎より釜山を經て浦鹽に至る航海は本年夏期長崎に於て虎疫發生の爲め八月七日以來長崎寄港は缺航となり浦鹽、釜山、門司間を航行し來りしが已に長崎の虎疫は終熄を告げ流行指定地を解除されたるを以て同航路船忠清丸は來る十四日釜山出帆十五日長崎著同地にて定期檢査を受け來月四日より從來の航路に復活すべしと（釜山）

◉痔疾注射療法開始

今回京城南大門驛前内二見旅館に於て診療を開始せる肛門病治療部門 久枝院長は多年痔疾注射療法を研究し森武[illegible]東洋肛門病院長森武[illegible]氏の研究室に於て森武氏の注射療法の蘊奧を極め氏も又一新法を發見し從來幾多の患者に實驗の結果最多の好成績を收めたりと氏は今回滿鮮各地を巡廻し氏が獨得の注射療法普及の爲め醫師講習希望者の爲めにも講習す

神社とお寺と教會

○西本願寺（若草町）十三日午前八時、午後一時、同七時より報恩講あり講師は午前八時より山の内開敎使、午後一時より松原總長、桂開敎使、七時半より松原總長、桑原敎務師の說敎

○東本願寺（南山町）十二日午後七時より日曜講話及び講話あり

○開敎院（本町三）十二日午後七時より日曜說敎あり猶ほ十二日午後一時より、觀水洞布敎所に於て婦人敎會、午後二時より婦人會ある由

○護國寺（旭町）十二日午後七時より宗祖大師法要及び說敎あり十二日午後一時より日宗婦人會俱樂部に落語あり

○日宗婦人會 旭町三丁目護國寺に於て十三日午後一時より法要及び法話日運主義に就て加藤主任師に餘興として落語あり一般參詣隨意

演藝案内

京城本町五丁目 稻荷座

十二日より新築初興行 △京阪落語別派三升家會 ◉大切所作事座員總出 ◉落語芝居喜劇本裝◉本衣裳應用

兩儀落語音曲（三升家紋四郎）伊勢參宮落語（同紋三郎）二人旅落語曲藝（同紋一郎）小倉船落語手踊（同紋之助）孝行糖落語手品（同紋[illegible]）あみだ池落語手踊（同紋六）[illegible]落語（同紋八）小言兵衞人情噺し（同紋七）三味線曲弾（同紋十郎）から／＼醫者落語（同紋之亟）大和かんじよ[illegible]（同紋太夫）中華民國人曲藝（張[illegible]）[illegible]落語並に若柳流扇舞師（三升家紋右衞門）振り附け（若柳吉[illegible]）

大好評の 浪花館

連夜滿員御禮 今晩は川柳特意の出し物 △文七元結▽

日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店 櫻井町 電話八七三 大正館

十一月八日より提供の新寫眞と餘興 ○喜劇オランダの風呂 ○喜劇甘い茶 ○滑稽ボビーの柴病師 △日活京都尾上松之助一派出演 舊劇鬼夜叉丸 全三巻 △佛國エクレール會社大傑作世界的大冒險大活劇 天馬空 全三巻 [illegible]

電話 一八五二（階上） 二六三七（階下） 黄金館

十一月七日より差替特別大寫眞 △實寫カタロニアの風景 △大滑稽ビル君の新兵 [illegible] △少女浪花節日吉川う[illegible]の子嬢出演可致候 M[illegible]天然色活動寫眞株式會社 朝鮮一手代理店 [illegible]商會

京城壽町 電話一〇五〇 壽館

△十一月十日 愛讀家の御好に依り特別讀物 [illegible] 肥後の駒下駄 全四巻 △[illegible] 鐵劇月岡刑部宅の場

日本活動寫眞株式會社特約 本町一丁目 電話二六六 有樂館

十一月九日より特別大興行 ▲日活關東撮影所最近の新撮影 [illegible]

大阪朝日新聞 新派 家庭劇 讀者デー 母と子 全五巻 割引券御持參各等半額 ◎大正館

御成町 電話一一九一 御成座

第二十一回替り （一）嗚呼悲慘人三片輪 全九場 （二）喜劇江戸之花 全二場 下女おきん（花岡）秋月雪夫（吉見）[illegible]

明治町 電話二六〇 浪花館

△九日より 朝寢坊むらく改め[illegible] [illegible] ○人情噺毎夜正五時半開演仕可候

M印 品質本位 大阪唐物町四丁目坂田商店

佐賀縣基里村 結核專門 古賀病院 鳥栖驛[illegible]

移轉御披露

今般業務擴張の爲左記の處へ移轉仕候間倍舊の御引立奉願上候

京城本町二丁目 川合時計店 電話二九一八番

懷中電燈 眼鏡御時計 及附屬品一式

タイヨー萬年毛筆

曩に五千本を限り特價賣出しの本品は非常の好評にて愈々全部を賣盡したれば各位の御厚情に酬ゆる爲製造元と交渉し引續き特價六十四錢を以て販賣可仕候間相變らず御用命ありたし 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

學者の創製したる 美顔ユーマー

愛用者の寄書 （其三）

紀伊 青木あき子

「おしろいをつけて先生に小言云はれるのなら之を使つてごらん」と云つて、東京から歸つた姉が出して下さつたのは廣告を見て日頃からほしい／＼と思つて居た美顔ユーマーでした。今の若さに何の化粧もせず黒い顔して過すのは云ひしれぬ苦痛でございました。その憂ひを一掃して下さつたのは實に美顔ユーマーでした。今も缺かさず毎日愛用致して居ります。おかげで此頃お友達などから「おしろいもつけないのに何故そんなに美しくなつたの」と問はれますので、美顔ユーマーをおすゝめして、共々に美のよろこびを心から感謝して居ります。

竜田川

2570.158.11

大阪 桃谷順天館 東京

△川柳[illegible] △今回[illegible] 同 十七日 同 十八日 同 十九日 ……一週間以内に到着の……十錢書籍券を呈す……記に限る」

……九月一日……三月廿八日 九月廿八日 三月廿三日……

宮本武藏

第二百十四席 桃川如燕口演 浪上義三郎速記

曉雲二天の兩人は仙臺城を出て松島見物に參りましたが、此の松島は船で見物をするが宜しい島と島の間を船で乘り廻して見ると實に絶景でございます、船より上つて鹽竈明神へ參詣いたしそれより瑞巖寺へ參りましたが、折節政宗侯も瑞巖寺に居合せて居りまして曉雲二天の兩人を雲居禪師に紹介しますると、禪師も大層喜んで兩名を待遇しまして玆に四五日逗在をして居りましたが、雲居禪師は宮本二天の畫に巧みなることを聞いて、何か其許の氣に叶つた物を認めてくれる樣と依頼され、二天快く承知いたして認めましたのが蘆雁の圖でございますが、實に能く出來ました、是を表裝したのが今に遺る蘆雁の掛物、瑞巖寺の什物に遺つて居りまする、扨兩人は再び仙臺城に戻り政宗侯に暇を告げて此處を出立いたしました、是より金華山を見物しやうと參りましたのは涌谷でございます、當所は伊達兵庫の領地である、町の入口まで來ると後方から○『エイ下に／＼』と先を制して來るものがある曉雲二天が顧返て見ると馬上で立派な侍が大勢の供を從へて此方へ來る樣子、兩人は見ると向ふの角に高札場があつたから其の前へ來て躊躇で居ります、處へ先に立つた徒士が飛で來て○『コレ／＼其麼處に躊躇で居ては叶ん、後へ退つて居れ』曉『へー、御意でございますが、高札場三尺四方は御免の場所でございますから差支はございません』○『口のへらねえ老爺だ、御領主の御通行だ、退つて居れ』と小言を云つて行き過ぎる 曉『恐しい横柄な野郎だ』處へ年若の先徒士が來て『コレ／＼老人、其處に居ても宜いが足でも踏れると叶んから此の後の方に行つて居たら宜からう 曉『有難うございます、それでは然ういたしませう』と高札場の後へ廻つて 曉『二天、同じ徒士でも前の徒士と今來た徒士とは雪と墨ほど違ふな、今の徒士は年は若いが老人を勞はつてくれて親切に教ねてくれる、彼の前の徒士の意地の惡いこと、大きな聲で小言ばかり申し居るあんな奴は生涯徒士で終つてしまう、馬鹿な奴だ』と云つて居ると前の徒士が曉雲の後に立つて聞いて居たから怒つて○『何故だ此の老爺、馬鹿な奴とは』と突如拳を固めて打つてかゝるを曉雲は、曉『貴下は出世をなさる、色男さまで』○『馬鹿にするな』と徒士も驚いて行つてしまう、處へトウ／＼／＼乘立て參りましたのは別人ならず涌谷の領主伊達兵庫であつたが、馬の上からヂロリと是を見ると三四度お目通りをした水野日向守勝成でございまするから驚いて馬より下り、兵『それに渡らせられまするは水野日向守樣ではございませんか拙者は伊達兵庫にございます 曉『オー珍しい伊達兵庫であつたか今回は內々のことであるから何れへも立寄るまいと存じたが、此處で會ふて見れば據ない譯 兵『何は兎もあれ涌谷へ御立寄りを願ひとう存じます』と自分の馬を曉雲に與へ乘替を二天に與へましたから兩人は馬上にて兵庫は先に立つて大勢の供方が周圍を取巻きエイホウ／＼と先を拂つて入つて來た、城下の町人驚いて 町『何でございませう、御領主が案內をして馬に乘せて伴れて來る位だから凡人ではありますまい △『左樣サ天狗でございませう 町『天狗にしては鼻が低い △『內天狗でございませう』なぞと種々なことを云つて居る、涌谷へ案內をして其夜は酒肴を取揃へて御馳走をいたしまする、曉雲は兵庫に對つて種々政治向のことなぞを御尋ねになり 曉『洵に其方の政治の執り方が宜しい故領內穩である、此の上とも非道の無きやう心掛けなさい』と夜と共に話し明し中一日隔いて涌谷を出立いたすことになる、兵庫は町外れまで見送つて其儘引返します、此方は曉雲二天の兩人是より衣川を指して進み行きました。

外科一般 皮膚科
泌尿器科 花柳病科
院長 安部修三
京城永樂町二丁目金光教會隣
安部醫院 電話四一九番

肛門病 痔疾 注射專門
（十一月十二日より向一ケ月間）
京城南大門驛構內二見旅館內
肛門病專門 院長 久枝秀喜
『患者參考』最新式痔疾根治注射療法皆申込により進呈す

十一月十四日九星
舊十月十九日乙卯 本命九紫南定佛滅

▲九紫● 反對論の事有る日新事見合西方は吉 劍難▲一白● 營商不利を意味する日 新事手控萬事は吉 約束に注意せらるべし▲二黒● 風潮の日轉居 行商入學 名弘求職建築金談婚禮定期業等皆吉▲三碧● 混の當る日 男子は常の望み叶へ女子は思はぬ幸福を得る萬進で吉 待人來る▲四緑● 見込の立日轉居開業入學名弘求 職金件婚禮輸出業等萬吉▲五黄● 養事湧出の日轉居開業 金談婚園 求職建築叛藏業を起す等萬吉▲六白● 陸の日新事手控萬事は吉 衛生に注意せらるべし▲七赤● ゆきなやみの事有る日新事手控萬事は吉 又散財を防がるべし▲八白● 福德圓備の日轉居行商 入學名弘求 職婚禮金件金融業 萬吉

山縣五十雄 村上唯吉共著
▲富の道しるべ 價十五錢 郵稅二錢
京城太平通 振替三〇〇番 京城日報社代理部

油斷大敵
風邪は萬病の本
日に增し寒さ激しきけふ此頃
▲ゾット寒けする時
▲氣分惡しく頭痛する時
▲頭重く發熱する時
▲手足腰の冷込む時
▲咳嗽の出た時
何となく風邪の氣持する時は
何を措いても
風邪溫め藥
守妙（守田の妙振出し）を今スグ召上れ

かぜ 冷へ込みには 守妙

守妙 は風邪、熱をさまし、痰咳を治し、全身をあたゝめ、婦人の冷込より來る諸症に
意外の大効あり
躊躇なさらず、一刻も早く今スグお試しあれ
●注意
風邪温め藥として妙振出しの右に出る者無しと古今を通じて今尚信用益々高き所以は近來行はるゝ丸藥、散藥なる風邪、熱さましにし彼の恐るべき副作用中毒を起す危險性を有し之に反し振出し藥は其効能溫和にして如斯危險更になし是れ妙振出しの一大特長なり
定價 試用一貼金五錢 二貼金拾錢 總用包六貼金廿五錢 十三貼金五十錢 廿八貼金壹圓 六十貼金二圓
賣本舖 東京上野池之端仲町二十七號地 十二世 守田治兵衛 振替東京二九八五番
（全國有名藥店にて販賣す）

天下一品の
クラブ白粉
洗つた後の生地の色迄も白くなる
東西の美人間に……最も賞用せらる

クラブ白粉は日本名物クラブ洗粉本店招聘の俊秀な學者や技術家達が互に力を協せ研究に研究を重ねた結果完成しました理想の白粉で附けて高尚で非常に美しく洗つた後の生地の色までも白くなるといふクラブ獨特の効力を具へてゐますから一般御婦人間に非常な好評を博し東西の美人は皆クラブ白粉の愛用者でございます……
猶且最近發賣致しました
クラブ美の素白粉
も亦クラブ白粉と同樣の効力を具へ而かも頗る御化粧用向に出來て居りますから近來各地共非常な賣行でございます

診察時間 自午前九時至午後六時
初診の御方は可成午前中
京城長谷川町一丁目（朝鮮銀行裏門前）
シメノウチ齒科醫院
電話八一二番

效能 逆上を引下げ便通をよくし黴毒其他諸毒を下す
效能で賣れる
七ふく ひゑもり
大日本大阪高津
電話南七二九 振替大阪九七二
本家七ふくや伊藤長兵衛

營業品目
罐詰 乾物 海産物 雜穀 清酒 銘茶
漆器 家具 文具 紙 荒物 履物
金物 農具 石炭 石油 陶器 磁器
洗濯石鹸 洋蠟 日本釜 京城釜 サバリ井 提灯
蒲團綿 中入綿 小袖綿 鐵火鉢 箱火鉢 飯ビツ
仁川新町 津田兄弟屋本店
仁川宮町 津田兄弟屋支店 電話七六二番 振替口座京城三八九番
京城本町 津田兄弟屋支店

小兒用 大學目藥

小兒用大學目藥は眼科の大家が專ら十歳以下の小兒の爲めに慧敏且周到なる注意の下に創製せられしものにて子供の爲めに信頼すべき目藥であります
大阪 參天堂藥房
定價 拾錢

京城日報

十三日刊（夕刊と合せて八頁）

本紙定價 一部金三錢 一ヶ月金六十五錢 [illegible]
廣告料 [illegible]
發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城大和町一丁目 合資會社 京城日報社
電話 [illegible]

第二版

[illegible]なることは最近十年間殆んど見ざるところにして斯の如き傾向を持續し[illegible]にかける貯炭高の大減退に困れるは勿論なるが採炭制限撤廢に叫び各山元にかける原動力たるべき工夫の[illegible]術各諸工業の誘拐亦激烈を極め居れる狀態なるを以て從つて之れが防止に努むため[illegible]全廢顧に比し工夫賃[illegible]集を爲し得ざる等の原因は自然目下の如く新規注文に應じ能はざる狀態を呈せるが從來は運賃高の爲め引合[illegible]殘餘會社の如き稍々幾分かの手持品あるも大正六年下半期に至れば[illegible]

●下院各黨派別

事務局調査

十一月七日現在の衆議員數各黨派[illegible]

▲無所屬 此中憲政[illegible]事件に座せる那須の根岸與太郎、香川[illegible]三二氏、事件附帶し居る[illegible]政友會は栃木の友常穀三郎氏に裁判[illegible]を見るや否や宣告あり[illegible]も長崎縣には則元氏

鵠巣居閑話

米國大統領改選（七）

蘇峯先生 中島生記

米國の選擧も、初めはヒユース當選の報であつたが、事實は寧ろ其の反對で、ウイルソンの再選らしく信ぜらる。

元來米國の政權は、南北戰爭以來、六十年間、殆ど共和黨の全權に歸し、其間に於て、民主黨の大統領と云ふは、前にクリーヴランドが二回、後にウイルソンが一回、今回を合すれば、是亦二回となる丈けである。

然かも、クリーヴランドの當選は、共和黨の或る部分が、其候補者ブレンに反對し、所謂政界の淸教徒を以て任ずる中立派が、擧つてクリーヴランドに投票したる結果である。

前回ウイルソンの當選も亦、共和黨が分裂し、ルーズベルトが進歩黨を組織し、ルーズベルトとタフトとの葛藤の爲めに、遂にウイルソンをして、當選せしめたものと思はる。

然るに今回は、共和黨の方に於ては、最も敵の爭きヒユースを候補者となし、ルーズベルトも自ら候補者を辭して之を助け、又ルートの仲裁にて、ルーズベルトとタフトとの仲直りも出來、愈々全黨一致して懸りたるに拘らず、ウイルソンに勝を制せられたのは何故であらうか。ヒユースは、頻りにウイルソンの對外政策の柔軟なるを攻擊し、獨逸に對して潜航艇の亂暴を取締ることも手緩く、墨西哥に對する懸引きも緩慢にて、國利國益を損する多大なりと、論じたけれども、實は自己の建設的外交政策に就ては、何等明白なる意見を吐かず、詞はヒユースにては、米國の建設的帝國主義を代表するには、聊か物足らぬ有様であつた。然もウイルソンは、寧ろ口舌の雄にして、唯だ局外中立を維持する迄である。が、其の結果は却て交戰國双方に向つて、商賈を繁昌せしむる事となつた。政治家として見れば、ウイルソンの遣方は、或は物になつて居らぬ感がある。合衆國の眞中で、獨逸人が、兵器製造所を爆發せしめたり、或は陰謀本部を構へたり、傍若無人の働きを爲すを見て、歯痒く思ふ向もあつたであらう。然かし、一般米國人の人氣より見れば、ウイルソンは手を拱して自然の勢に放任して、商賈繁昌、金貨大洪水を來すを以て、最も歡迎すべき事としたに相違はあるまい。乃ちウイルソンの放任政策は、寧ろ名義上では損であつても、事實上では得であつたと、言ひ得べきであらう。此の商賈繁昌の人氣が、ウイルソンを當選せしめたのではあるまいか。尤も、今日に於ては、米國の軍備擴張、殊に海軍擴張に就ては、孰れの黨派が勝利を得るにせよ、さしたる相違はないのである。『プリペアドネス』（準備）の一語は、米國の輿論であつて、此の輿論の前には、ウイルソンでも、ルーズベルトでも、何れも服從するより外はない。即ち曾て米國は、獨逸に向つて戰を挑むよりも、今少しく大人びて居ると言うたるウイルソンも、自から國旗を携へて、軍備擴張の示威運動會に參加したる程であれば、縱令共和黨が勝利を占めざればとて、米國の軍備擴張は、必ずしも中止せらるゝのではあるまい。然かし、ウイルソンは、米國に於ては、寧ろ保守力にして、進取力でない。秩序力にして、破壞力でない。老成著實の人は、猶ほウイルソンを以て、比較的安全の大統領と思ふであらう。ウイルソン其人は、曾てプリンストン大學總長であり、其の米國の憲法及び歷史に通曉したる事は、『米國國會政治』及び『米國國民史』等の著述によりても、證することが能きる。彼はニユーゼルシー州の知事としても、名聲があつたのである。彼は學者政治家の短所があると同時に、又其長所もある。彼れの國會に與ふる教書は文章の模範である。然かし、國民は彼が能文なるほどに、其の手腕を認め居るや否やは疑問である。彼は一昨年其の最愛の妻君を喪ひ、昨年華聖頓に於て、有名なる美人にして、金持ちの寡婦なるガルト夫人と結婚した。此の結婚は隨分大評判であつて、彼が新婚旅行の最中に、獨逸潜航艇の、大西洋航海の巨船を沈没したる報知に接し、匆々に之を中止して、華聖頓に歸つたやに記憶して居る。彼は家庭に於ては洵に正純なる人である。吾人は彼が二度目の大統領として、其の多福を祈るものである。（鵠巣居閑話畢）

朝鮮の古城郭（完）

八木奘三郎

（五）結論

朝鮮の古城郭は以上記述せし所によりて略ぼ了解せられしことゝ信ずるが、而も概括して之を曰へば、初め支那漢族の東漸と共に彼等が故國風の城郭を造りしもの其根源を爲し、三韓時代に於ては之を模して小規模、不完全のものを造り、尋で扶餘族の侵入するに及んで、玆に特種の圓形城郭を構成するに至れるが如し。但し當時は漢式と曰はず、扶餘式と曰はず、概して大城なく、又土城の一種に止まりて位置も多くは平地を主とせしならんが、彼の城壁に至りては其間に多少の相違ありしやも圖られざるなり。何となれば支那春秋戰國の戰鬪を按ずるに、其攻城、守城の場合は壁を固ふして出でずなど云へることゝ往々に之れ有り、去れば當時は同じ土城にても、壁に根底を土累となし、其上部には木柵を建て、或は樹木を植ゑし[illegible]厚き土壕を設けて敵の侵入を妨ぎしものなる可し。此例は予朝鮮に於て未だ實見せず、故に引用に供し難しと雖も、我新領地の臺灣には其好適例あり、勿論築造の年代は至て若しと雖も、其形式を推するには充分なる可し、并は即ち臺南城にて、此城は全體土築なれども、其[illegible]構造は今日大小砲の行はるゝ際すら猶ほ用ゆるに足れり、故に古代は假令如此堅牢ならざりしものとするも、大體に於ては相似たる城壁なりしならん、而して扶餘式城郭は多く土累上に木柵を建てたることを記すれども、中には普通に所謂土壕を設けしものならんか、唯だ三國中の高句麗のみは其都城を石築にせしが如き記載あり、斯は假りに事實とするも極めて稀有の例にて、半島內には其風未だ起らざりしが如し、然れども三國時代に入りて山城の多く行はれしは一に戰鬪法の發達せし爲め、其場合屢ば實現せられし爲め、之を險要の地に防ぎて、敵の進襲を困難ならしめ、且つは領土の次第に擴がれる爲め、兵を各地に配置する必要上、之を經濟的に用ひんとせし結果なる可し、殊に都城を廣大にせしは國家の發展上に其壯麗を示す意味も含まれしなる可しと雖も、實は各地の出城落城する場合、若くは初めより敵を都城に防ぐ必要の際は、國中の大將株、或は部下の精英を一所に會して籠城すること、宛も小田原の北條が上杉謙信、豐臣秀吉に當りし時の如く、又百濟、高句麗の兩國が唐、羅の大兵を扶餘、平壤等の地に引受けて戰ひし折の如き場合あり、斯る際は城郭大ならざれば兵を容るゝの餘裕なく、隨て國家の滅亡を來す恐れあるに依り、其必要上城郭を廣大にせしものなる可し。（完）

放浪漫記

十一月一日漢口に於て 大谷光瑞

（承前）文字は苔蝕に非ざれども二三不明の點あり、或は誤謬なきを保せず、然れども乾隆帝が其故墓を擬せずして修築せしは分明疑ふ可からず耶律楚材の事蹟は世人多く知る所にして今贅言するを要せず、彼れが文治の才は大元の第一の人なり、蒙古猛將唯武ありて文なし、燕京を陷れ直隸の野を奪ふや、曠里千里極目坦たるを見、皆言て好牧場たり馬を放たば好草を得べしと由て各村市鎭を夷げ人を殺し併て叛亂を根絶せんとす、是時楚材死を賭して爭ひ、代るに貢賦租税の制を建て、馬に代ふる人を收せんとす、貢租の説未行はれ難しと雖も、屠戮幾し百萬の生靈無告の寃を免れたりしは一に楚材の恩賜なり、後忽必烈徵辰可汗の移て燕京に都するや、楚材の貢租の制も施され、殷富繁盛の大都となり、附近亦百貨輻輳せり、乾隆皇帝は明君なり、楚材の忠臣たるを知り、陶固の一隅を割き之れが墓碑を樹て、祠堂を作り後世に祭祠を絶たざらしむ、慈禧皇太后は女傑なれども、素より乾隆皇帝の朋に比す可からず、墓を辭して發電所の後に置く、發電者より不可ならず何ぞ楚材の墓に接せしむる要あらんや、滿洲の滅亡するや宜なり、事の[illegible]せんとするや必らず朕あり、君子は先づ知る故に過ぐなし、この一小事を以てするも滅亡の微たるや論を俟たず、祠屋中楚材の像あり、蛛網堅封して容易に入り難し、これを窺ふに白面硃髯なり、楚材は遼の宗室にして貴人なり、白面は猶可なり、硃髯に至つては然らず、彼れは美髯を以て名あり、此像果して乾隆當時の物なりとせば、皇帝の一瞥を得ざりしものならん、皇帝は博學の人なり豈如此硃髯を許さんや、一日林公使に陪して武英殿に至る、是清室の古寳を陳列する所たり、磁陶器最も多く書畫最稀なり、蓋し磁陶は是を陳列するも損傷少なく、書畫は大なるを以てならん、萬金を以てするも比價す可からざるもの多し、近時磁陶器の西人に貴ばるゝや支那に於けるより甚だし、好事の人垂涎を禁せざるもの比々皆然り、小生も我帝室博物館以外に支那美術品の此の如く多數陳列せらるゝを見ず、素より其數を以てせば我亦遙かに下位にあり、聞く所によれば陳列せられるは其十中一二に過ぎず、只多く陳列せば盜難の虞あり、故に之を藏せりと云ふ、盜は外人に非ずして概ね看守者なり然は盜を備て物を護しむるに似たり、之を深藏するも亦理あると云ふ可し、予は親友等に別を告げ十一時三十分北京を發し、三十一日午後二時半漢口に著す、往時は三十八九時間を要せしと、今は二十七時間に過ぎず著しく短縮せり、漢口は江水漸く減じ岸側泥土を露はせり、聞く所によれば湖南は已に減水し汽船は長沙に至る能はざる可しと、今朝入時武陵丸に乘じ湖南に向ひ申候、瀟湘の秋色は後便に御報知申上候 草々（完）

朝鮮の麻織物（一）

中央試驗所 室田武隣氏談

△麻織物の改良

古來朝鮮の麻織物は其の改良すべき點頗るから[illegible]は勿論其の[illegible]も未だ其の[illegible]さるも之が改善促進は殆んど困難の事業にて殊に之を一の工業として成功せしめ其の[illegible]を增大し輸入の防遏を計らむとするに至りては更に一層の難事たらざるべからず然りと雖も徒らに姑息なる現狀に放任すべきにあらざるなり左に必須の事項を摘錄し現今一般に獎勵せられつゝある方法等に就て少しく卑見を開陳し本業發展の一助たらしめんとす

從來行はれつゝあるは石蒸法と稱し河邊に穴を穿ちて其の內に刈採りたる麻幹を積み重ね、他方に於て薪と共に多くの石を燃口の上に積み、薪を燃燒して赤熱せしめて之に水を注ぐ、而して此の際に發生したる蒸氣を麻積に通じて蒸す方法なり、頗る幼稚なるものなりと雖も、簡單に蒸氣を得る方法としては要を得たるものにして、一度に五十束乃至三百束を蒸すことを得、次に之が改良法は箱蒸法と稱せられ三尺角長さ九尺程の木箱を大釜の上に載せて行ふものにして、石蒸に依る時は其の蒸し度合を自由に加減することを得ず往々過熱して纖維の脆弱ならしむるの恐れあるも箱蒸法は之の缺點無きのみならず、工費の點より見るも一束の麻幹即ち束ねたる根本廻り四尺位にして目方四貫乃至五貫のものに付きて計算するに石蒸法は十錢乃至十三錢を要するも、箱蒸法は僅かに四錢乃至六錢にて足り薪代に於て約三倍、人員に於て二倍の經濟となり改良法の成績遙かに優良なるにも拘らず、未だ一般に其の使用を好まざるの傾向あり、而して北鮮の某名產地に於ては現に改良蒸箱を給與せられながら全然之を使用せざるの事實を見れば、其の計算にのみ據りて成績の優良なることを推斷せんとするは聊か早計に失するの嫌なき能はざるなり。

△麻刈取りの時期

に至らば少くも五、六日以內に全部に亙りて之を行はざれば麻皮硬强に過ぎて製織、緊連等の作業に困難を感ずるのみならず、刈取り後直に之に蒸熱を加ふべきものにして若し降雨に會する時は光澤、彈力を失ひ品質を劣惡ならしむるが故に、改良蒸の一回僅かに三十束位にては作業捗取らずして徒らに時期を失するの恐あり且つ生產品の色澤に於ても相同じから古來の習慣上石蒸法に依るものを良好なりと認めらるゝものゝ如し、又改良蒸獎勵の方法として一郡內僅かに一、二箱を備へて其の使用を慫慂したりとて成績を擧ぐる能はざるは勿論、目下の鮮人地方生產者の經濟狀態に於ては蒸箱製作の餘裕もあらざるべく、之等の諸因相倚りて成績の不良を來し、理論と實際の不一致を見るに至りしものと云ふべし

日報詩壇

○和高田小芥君瑞韻四首 齋藤 三寅

月登蒼芝太湖流。山破雲煙人破愁。計識心田風雨穩。詩思老熟似豐秋。

月照欄干人仰天。詩魂飄搖脫塵緣。數行落雁向誰語。斷續蛩寒碧雲邊。

唧唧蟲聲雄與雌。遊人擔壁所何思。美艷月下孤閨客。憶舊遊來寄竹枝。

見女園爐煨芋魁。翁酣村酒醉眠催。秋深夜靜幽庭裏。泣月寒蛩破耳來。

評曰 無限寓意、悽惋動人。

○立太子式恭賦 古城 梅溪

富嶽靄晨曦。儲宮叢彩披。旵旐下靑瑣。劍佩儼彤墀。黃菊露華潤。丹楓霜葉滋。綿綿嗣皇統。四海仰雍熙。

評曰 穩貼妥熨、用意深厚。

○初冬書懷 望月 桂軒

忘憾天地四時佳。雪月風花足暢懷。最喜山村霜後景。白雲紅葉一溪埋。

評曰 詩品幽靜、雅見性情。

○天長節恭賦 西田 白陰

五雲靉靆曉光分。菊發階前特地薰。鶴頌千秋傳妙曲。民呼萬歲帶微醺。皇基不動稜威遠。寶祚無窮瑞氣氤。遙向東方齊嵩祝。新封草木亦欣欣。

評曰 詞旨明暢、絕好頌辭。

文學士寺田精一先生監修
トモダチ
毎月一回發行 ▽一冊十二錢 郵税五厘▽ △六冊郵税共七十錢△
十二月號 美しい繪と面白い教育お伽噺が滿載 特別大懸賞あり
●（手工附錄）オモチャのキシヤ
東京麴町區富士見町一 二葉社 振替東京三一三六三番 電話番町四〇五八番

會員募集 藥劑師志望者は入會申込まるべし 見本會則入用者は郵券を送らるべし
日本藥學講義錄
●講義錄完結 東京丸の內 日本藥學講習會

嚴谷小波先生監修
幼年畫報 十二月號 定價各十二錢 郵税一錢 東京本町 博文館
特別附錄 お歲暮畫し（オセイボの品々を集めた京繪本、一枚づゝ切離せばカアドが出來る）
幼年世界 小波お伽 冬の神（その外お伽噺、幼年冒險、歷史談、動物談等何れも幼年諸君の最も喜ぶ記事滿載）

日韓書房 新版報告
德富猪一郎著 大正の青年と帝國の前途 定價八十錢 送料十錢
奥野他見男著 諷刺諧謔 先生と生徒 定價四十錢 送料四錢
長岡春一著 大戰外交史 定價三圓五十錢 送料十六錢
大谷光瑞著 放浪漫記 定價一圓三十錢 送料十六錢
岡本米藏著 牛 定價一圓 送料十二錢
京城本町二丁目 [illegible]

貯蓄預金 元金百圓ニ付日歩壹錢三厘 金壹錢以上何程ニテモ御預申候
株式會社長崎貯蓄銀行代理店
株式會社 十八銀行京城支店 京城黃金町電話四二〇番五八〇番 振替貯金口座京城八一四番
同 龍山出張所 龍山元町二丁目 電話一八番
諸預金貸付爲替銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候

京日案內
普通一回前金一行二十錢 番外一回前金一行（號名一圓以上に限る）五錢増
▲申込後中途掲載中止の節は料金返戻せず

●藥劑師雇われ度年廿三病院又藥店 御報參上 姓名在社 698
●古著古服マント蒲團類大安賣 古著類なんでも御不用品高く買ます 太平通二丁目八九松本古著店 633
▼大正六年カレンダーと新案引札 京城本町電二五二七番ウツボヤ書店 591
●バイオリンと大正琴 京城本町二 勢山樂器店 700
●貸家 土地高燥日當良く諸設備完全の平家建最上等貸家二棟 家賃卅三圓卅五圓 電話一二九番 701
●給仕一名入用 小學校卒業の者希望者履歷書携帶本人來談あれ 市內確實なる保證人を要す 漢湖農工銀行 690
賣藥店安價讓度し（姓名在社）697
●男女外交員募集 月收金五十圓確實 希望者は履歷書携帶本人來談あれ（姓名在社）696
●看護婦見習生數名採用す 希望者は本人直接來談 旭町一丁目 中央婦人病院 387
恩給 年金 長期 即時現金 立替 短期無保險月利一歩二厘五毛 京城南大門外（御成町）山口屋 693
博多屋號 名產 燒アゴ アゴ竹輪 博多 安藤商店 京城黃金町一丁目電話二五一八番 702
京城春川間行自動車貸金片道四圓 毎日午前八時出發 京城南大門通一丁目 廣橋自働車組 電話二一九番 650
內科 小兒科 院主 古城 [illegible]吉 大和町一丁目（日の出橋下る）爲春堂醫院（電話九一八番）656
恩給 年金 長期 低利 立替 即金 ▲當分最長期融通 商品陳列館前 ▲京城永樂町一丁目 江州屋本店 654
●銃砲火藥 獵具 京城本町三丁目電話二〇九二番 增戶銃砲店 488
●はねつき（うちみくじき）等 一切の治療御依賴に應ず 明治町 柔術道場 594
毛皮なめし 並に仕立 鳥獸剝製 調進販賣 京城本町二丁目電話二〇六五番 元商行 612
恩給 年金 低利 即時現金 立替 短期無保險並に勸業貯蓄債券買入 京城永樂町二丁目（金光教北手）國江商會 643
恩給年金 立替 利子年一割 即時取引退隱料一切 京城櫻井町（大正館向）元祖 博多屋 本店 661
△獵期と魔法瓶 魔法瓶中瓶取替 京城本町一丁目 高木旅行用具店 662
店員募集 生菓殊に本場にて經驗を有する者は特に月給相談に應ず 食料品雜貨の店員は御相談にて三名入用但保證人を要す 京城吉野町一 岩城商店 670
捕鳥用 ●●● カスミ網 三間物二圓十錢 五間物三圓五十 小鳥捕用ニタナ 其他大鳥捕用種々あり 京城永樂町二丁目 吉備商會製網部 678

○革命黨分裂の兆
張繼等上海へ向ふ

革命黨分裂の徴あり之が調停に就き唐紹儀及近々上海に到著すべき李烈鈞と協議する爲民黨領袖張繼等は十二日出發上海に向へり(北京電報)

○中國銀行の窮狀

各國銀行は中國銀行の注文に依り十日より中國銀行の紙幣を再び受領せざる事となりたり蓋し中國銀行は近來再び窮狀を呈し各國銀行より持ち來れる中國銀行紙幣全部を兌換する事困難なるが爲めなり(北京特電)

○獨軍ソンム逆襲失敗

獨軍がソンム戰線に於て企てたる逆襲は聯合軍の擊退する所となり終に失敗に歸せり(桑港電報)

○獨軍十月死傷廿萬

公報に依れば獨軍十月中の死傷者は十九萬九千六百七十五名にして中三萬二千五百四十四名は死者なり開戰以來獨軍死傷者總數は三百七十五萬五千六百九十三名に達し其の中死者十五萬五千八百七名を算す(倫敦電報)

○羅軍一名橋を奪取す

羅軍公報に曰く=羅馬尼騎兵及び步兵隊はツエルナヴオダの西方二哩に在りて有名なる一橋梁を奪取し引續き戰鬪中なり(倫敦電報)

○コンスタンザ港砲擊

露國黑海艦隊は嚢に獨勃軍の占領せるドブルチアのコンスタンザ港を砲擊中なり(桑港電報)

○ブラッセルの慘事
獨逸勞役者と白耳義人との衝突

アムステルダム來電=マースリクト(和蘭と白耳義との國境に位する都市)よりの報道に依れば白耳義ブラッセルに於て一大慘事演ぜられたりとの風說頻々たるが聞く所に依れば獨軍は壯健なる人民數千名を强制勞役に服せしむる事に決し先發隊として一群の人民停車場に集合するや些細の出來事より遂に大騷動を惹起し果は暴行を演じたり此の椿事に依りて三十名の獨人は即死或は重傷を負ひ白耳義人側にも多數の死傷者を出したり目下何人もブラッセルに出入するを許されずと(倫敦電報)

●露支交渉案件
開原事件と哥薩克脫走事件

鄭家屯事件の交渉未だ解決せざる時に奉天省開原の而も我滿鐵沿線附屬地に於て露支兩國兵の衝突ありて露國軍人虐殺事件突發し露支兩國の新難題となり追つては日支兩國間に於ても新たなる問題の喚起を見んとせる事は既電の如くなるが

▲被害側の言に據れば 近來露國は東三省に於て軍馬の購入をなしつゝありて去月三十一日長春駐在(長春の北)露國守備隊騎兵ラウロフは軍曹イサチフ其他二三の兵士を伴ひ開原方面に至り軍馬を購入せんとしたれども代價の折合整はざるため一先づ我滿鐵沿線開原驛附屬地に來り誘れて懇意にせる同地家畜市場管理者日本人江口某方に宿泊したるに深夜數十名の支那兵武裝して我附屬地に亂入し同家を襲擊せり折柄滯在中の露兵は斯くと見るや直ちに之に應戰したれども衆寡敵せずラウロフは初め銃創を負ひ終には虐殺されたる上所持金數百圓を剝奪されたり斯くと知るや

▲我守備隊は應急の處置を執りたるも已に手遲れの爲め終に之を捕縛すること能はずして引揚げたり負傷を負ひたるイサチフ軍曹は長春の病院に送り療治したるも死去せり駐京露國公使は三日夜此報に接するや直ちに外交部に質問書を提出したるが未だ之に對する公式の回答に接せざる由なるが今之に關する支那人側の辯明する處に據れば近來露國は軍用馬匹購入の計畫を以て將校に數名の兵士を帶同せしめ各地を巡遊し居たるが當日開原地方にて多數の馬匹を購入する事となり據金を爲す際

▲言語の間違より 地方人と大衝突を起したり又露兵は軍馬を購入するに當り其代價を支拂はずして掠奪を爲さむとせしより居民が公憤激勵して惡罵を與へたる爲め露兵は銃劍を閃かして恫喝を試みたれば居民益々激昂し多數を恃みて露兵に肉薄したるが多數の支那人は遂に露兵の銃を奪ひて露兵一人を殺し露將も又腰部に重傷を受け支那人數名も負傷したりと云ふに在り其損害は澤として露兵二名を殺害したることは爭はれなき事實として支那側も之れを是認せり而して露支間の問題は之のみならず一面

▲哥薩克脫走事件 なるものあり事件の內容は去る十月十九日露國軍隊が反亂を起せる哥薩克人を追擊して支那國境內に追込みたることもありて露國軍隊より伊犂駐防軍に對し該哥薩克人は擾亂を企てたるものなれば支那側に於て之を討伐するか又は彼等を引渡すべしと請求したるも支那國境內に遁入せる哥薩克人は既に數萬人に及び世界人道上より見るもその生命を露國の命令の儘死地に陷るゝこと能はず然れども彼等が永く支那領土內に滯留することは治安に妨害あれば露國にして彼等の罪を許すに於ては之を復歸せしむべしと云々の問題未だ解決せざる際前記開原問題突發したれば今後露支兩國間には面倒なる交渉開始せらるゝに至るべく隨つて我警察權を敷ける附屬地に於て起りたる事件なれば兩國交渉の進行と共に日本も亦之に關係せざるべからざるに立至るやも計り難しと一般に觀測せられつゝあり(北京)

□皇后御苑行啓

皇后陛下には十二日午前十時宮城御出門千種典侍御陪乘大森大夫以下の供奉員を隨へさせられ新宿御苑に行啓御先著の東宮殿下並に兩皇子殿下に御對面苑內を御巡覽後日本館にて各殿下と御晝餐を召させられたる後溫室御苑內を御散策午後三時御還啓相成りたり(東京特電)

●內鮮農產品及其加工品の出入狀況(十二)
朝鮮農業開發の根本研究

▲皮毛其他 野獸家畜並に鳥類の皮毛骨角牙類の輸移出は大正三年迄は百萬圓に上りたりしが大正四年には四十五萬圓に減じたり。元來本品の內地產出は多からざるに加工原料としての用途は甚だ廣く之が供給を外國及び朝鮮に仰ぐの狀態なるに依り獸皮約七十萬圓を獨逸米國英國に十萬圓の羽毛を英獨佛米に二十萬圓の雜品を支那及び米國香港等へ輸出するに過ぎざりしが大正四年に於ては加工品の需要增加に追はれ原料の輸出額は激減したり、以下農產加工品中朝鮮に關係ありと認めらるゝ主要なるものに付き概說す可し

▲小麥粉 內地に於ける機械製粉の製造高は大正三年に於て八千萬貫に達するも未だ需要に應ずるに足らず三百萬貫を米國加奈陀より輸入し輸移出高は臺灣へ三百萬貫外國へ三十萬貫を數ふるに過ぎざりしが大正四年に於ては米國粉の輸入困難となりたる爲製造高を增加し朝鮮へ七十萬貫支那其の他東洋方面に三百萬貫の輸移出を增加し其の輸移出量は臺灣移出を加へ七百萬貫三百三十萬圓を算するに至れり東洋各地に於ける本品の需要は莫大なるものあり

▲皮革及製品 大正二三年迄は二百萬圓を越ゆること多からず三年に於ける輸移出額は鞣革九十五萬圓、調革十三萬圓、靴二十萬圓、革製鞄三十萬圓其他の革具五十萬圓にして內臺灣へ二十萬圓、朝鮮に十一萬圓を移出する外總て外國に輸出せり、大正四年に於ては朝鮮に對する製革の出增五十萬圓、露國に對する軍用靴八百五十萬圓、軍用革具三百六十萬圓を增加したるに依り總輸移出額殆ど千五百萬圓に及べり

▲薄荷 日本は世界に於ける最大の生產地を以て聞ゆ輸移出年に依り增減あり明治四十四年には百六十萬圓大正四年には二百六十萬圓にして其間最も多かりしは大正二年の四百萬圓なりとす製品の種類は薄荷油三割薄荷腦七割にして薄荷玉は極めて僅少なり輸出先は戰前は獨逸を主とし英米なりしが戰後は英米佛を主なる顧客となすに至れり

▲生糸 世界全生產額の四割强を產出し其全產額の四分一を織物用として內地に消費し四分三を外國に輸出す輸出先は米國を主とし總額の八割五分を占め尚ほ一割を佛國に殘餘を英、伊、露の諸國に供給す。其輸出額は年に依り又は相場の變動に依り增減甚しきも明治四十四年一千四百五十萬斤一億三千萬圓大正元年一千七百萬斤一億五千萬圓、同二年二千萬斤一億九千萬圓、大正三年には一千七百萬斤一億六千萬圓、四年には一千八百萬斤一億五千二百萬圓なり、本年四箇月間の狀勢を見るに價格の騰貴と共に輸出の激增夥しく前年同期に比し四千萬圓の增進を示し居れば本年中の輸出は未曾有の盛況を見る可し

●鑛區稅と廢業
當業者の注意

鑛區稅は毎年十二月中に翌年分を前納すべき規定なるを以て稼行困難等の事情に由り此れが廢業を爲さんとする者は本年中に廢業に因る鑛業權消滅の登錄を申請す可く若し之が登錄せられざる限りは假令事實本年內に廢業したりとするも尚ほ來年分の鑛區稅を納めざるべからざることゝなるに依り此の際廢業を爲さんとする者は可成當十一月中遲くも十二月上旬迄に其の登錄の申請を爲す事肝要なる可し其の故如何といふに從前に於ては廢業は單純なる屆出に因りて其効を生せしも新令に在りては登錄規則第十七條の方式を具ふる申請書を提出せざるべからざるが故に

▲書類の不備 其の他の理由に依り登錄申請不受理となりたる場合、殊に遠隔の地に住し又は共同鑛業權者の調印を得る爲め申請書の再提出に多數の時日を經過せし結果遂に年內に登錄濟とならざる不幸を見るもの尠からざるべき虞あれば爾今は充分時日の餘裕を見積りて登錄の申請を爲すを得策とす、而して其の手續申請書には貳圓に相當する收入印紙を貼附し其の副本を添附する外、若し本年四月以後未だ成規の印鑑を提出せざるものは此際府尹又は面長等の證明したる印鑑をも添附し、尚ほ共同鑛業權者の場合は申請書に共同鑛業權者連署調印して申請するか、又は別に共同鑛業權者の廢業決議書を添附するを要す、就中

▲實際不受理 となるは申請書及び添附印鑑面の鑛業權者の住所と鑛業原簿記載の住所と符合せざる場合に多き模樣なれば若し登錄面の住所に變更ある場合に於ては其の地名稱變更の結果に因るものなると否とを問はず廢業の申請前先づ住所の變更に因る登錄名義人表示の變更登錄を申請することを忘るべからず此の申請書も亦登錄規則第十七條の方式を具ふるは勿論、之に十錢に相當する收入印紙を貼附し且つ其の副本、及び印鑑未提出のときは印鑑をも添附せざるべからず

●鑛業界益殷賑

鮮內の鑛業界は依然殷賑を告げ十月中の如きも出願件數二百七十件に上りて前月に比すれば十數件を增加したり而して鑛種の主なるものは金を第一とし砂金之れに次ぐも黑鉛、鐵、亞鉛等の著しく增加せるは矚目す可き現象なり

●咸南の漁況

咸南唯一の產物たる明太漁は嚢に北靑郡新浦沖合に於て僅少の初漁ありたるを始めとし客月末には洪原郡雲浦里大砲里に又々約三千尾の初漁を見て三十圓に賣却され新浦近海に於ては昨今冷氣著しく加はれるより鰤の回游を見るに至り既に漁獲高十餘石を算し居れり百級(一千尾)二圓の相場を唱へ居れば昨今の狀態にて推移せんか冷氣の加はると共に咸南沿岸本期に於ける明太及び鰤漁は共に前途大いに樂觀するに足れりと(元山)

●經濟研究會延期

京城の經濟研究會は十三日が定例會日に當り居るも昨今送迎其他人事多忙の際なれば特に今回は延期し本月內に適當の期日を選んで開會の筈なりと

●石塚總裁移轉

石塚東拓總裁は前吉原總裁歸東に付十三日大和町の官邸を引拂ひ永樂町二丁目の總裁社宅に移轉すべしと

●德富監督

既報の如く德富本社監督は十三日午前八時三十分南大門驛發列車にて歸東す可し

大阪だより

○歐亂前衰微の狀態にありし亞鉛事業は目下盛況の極に達し日本にては戰前僅々七十噸位の生產が一躍して四萬噸以上の生產能力を有するに至れり然かも英本國より注文頻々として跡を絶たず戰後價格四十磅以下となるも米國あたりにては不引合を免れざるも三十三磅を標準とせる日本の生產は却つて世界的の前途を有するものと樂觀さる之れ併し乍ら研究に價する問題なり

○十二月進水式の川崎造船所建造新艦伊勢は其威力我軍艦中第一位にあり排水量三萬六百噸速力二十三節馬力五萬五千武裝は十四吋砲十二門六吋砲二十門航空機攻擊用三吋砲陸戰用砲等約二十門二十一吋水雷發射管六門を有し製艦材料武器は殆ど內地製を使用せり是れ我邦の誇なり

○歐亂にて一時景氣附ける莫大小業者は近時英國の禁輸に會して俄かに狼狽し同業組合大會を開き當局を動かし英政府に交渉せしめんとすと云ふ、僅かにメリヤスの一種さへ打擊の甚大なる斯の如し堅實なる商法によつて將來の取引保障を爲すなど夢にも思はず粗製濫造目前の利窮にのみ汲々たるもの驟て戰後の憂目に會ふは當然の事なり殷鑑遠からず。近く大阪靑年團瓢々の聲を擧げんとす會社銀行大商店工場同窓等の首腦者を市長の名を以て請待し靑年團體を一括し意見聽取の上市長自ら團長となり大阪市聯合靑年會を組織し事業としては講演體育補習教育をなさんとす速かに成れ

○大阪淡路町の大物屋山口嘉藏氏客嗇を以て聞ゆる富豪なるが十七年以前より毎月六百圓宛を支出し苦學生を助け帝大六名商十名の卒業者と現に在學のもの六十餘名を養ふと隱れたる篤行欣慕に價す

○近時葬儀の黑枠廣告に僅か妻の死位いに仰々しく賣出しの小名士の名を搔き集め何々總代など、揭載する虛榮と賣名の盛んなる一見噴飯せざるべからず

○株の好況は新鬮を又々盲目滅法の高潮に引上げんとせり氣樂な金儲けをなせる徒輩の善惡など皆目解らず只名と値の高きを目標に買煽る聊か滑稽の觀あり(支局にて近藤探題)

●木浦先月金融

[illegible]入より豐收を謳歌され時節柄出廻り[illegible]增し移出漸々行はれ且價格も內地市[illegible]のあり[illegible]當地方の特產物たる棉花は時候後れの關係にて開絮著しく[illegible]はざりしも月を越さば兎にも角にも[illegible]棉花出廻り增加により市況は[illegible]くに棉花は[illegible]の不作にして本道[illegible]るもの[illegible]十月十五日發表されたる陸地實棉相[illegible]檢査は昨今多忙を告げ來れるが客月[illegible]

▲發文 風强かる可し▲氣壓の位置[illegible]

轉居

旭町一丁目百三十番地

阿部充家

人事消息

▲李堈公殿下 十三日午前八時五十分南大門驛著御歸京の筈

▲上林忠南道長官 十三日午前八時三十分南大門出發歸任

▲富家正義氏(開城專賣局長) 十二日夜退京

▲野坂茂三郎氏(野坂農場主) 同上

▲大橋長一郎氏(實業家) 十三日朝入京天眞樓へ

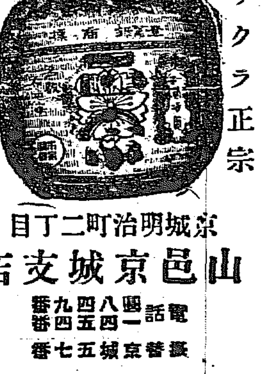
南言北語

米國大統領も愈々ウイルソン氏再選に確定したらしい▲何故に最初ヒユース氏當選の電報が來たかと云ふ事は鳥渡不審に思ふ人もあらう▲一體今度の選擧は實に空前の大混戰で兩黨共實際の確實な投票數を知る事を得なかつた▲當選者の賭なんかと來たら大凡二百萬磅の受渡しがある程で先づ其の人氣の如何を窺ふ事も出來る▲最初ヒユース氏は非常な勢で紐育を始め六七州では大勝利だと判明した▲共和黨本部では愈々大勝利と確信し七日の夜にヒユース氏當選を發表した▲其處で世界に向つてヒユース氏當選の電報が飛んだ譯だ▲民主黨本部では大分心配して居た處へ七日の夜から八日の朝へかけて同黨確實な得票は二百六十四票とあつた最う僅か二票で當選するのであるから稍や愁眉を開くと同時に當選確定を發表した▲と同時に民主黨員は選擧委員長マツコルミツク氏を引つ張つて來て盛に胴上げをしてウイルソン、マツコルミツク兩氏の萬歲を三唱した其の勢ひ却々當るべからずと云ふ處▲其れに引き替へ共和黨の方では次第々々に心配が始まり意外で民主黨員のやつて居る示威運動を眺めても一人として談笑する者もなかつた▲ウイルソン氏の再選は氏の內政外交が成功した證據であつて米國人氣質が能く發揮されて居る▲蔡鍔もとうど死去した相な先に黃興を失ひ今又蔡鍔を失ふは革命派の爲に氣の毒千萬である▲黃興が我南洲翁を崇拜し蔡鍔が我大石良雄に私淑して居た處などは面白い對照だ

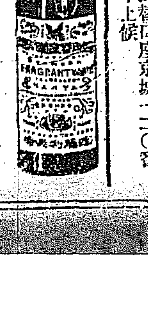
●新築落成移轉御披露

金氣清澄の候各位倍々御多祥慶賀の至りに奉存候降而弊店事是迄黃鳥谷に於て營業致來り候處今回新築落成仕候に就ては左記の箇所に移轉し更に營業の方針を改善し專ら料理鹽梅に丹念の上待遇向其他にも十分に注意を加へ諸事御滿足を得る樣精々勉强可仕候間倍舊の御引立を給はり度移轉御披露を兼ね右御願申上候 敬白

京城本町二丁目(辻屋裏)
弦齋流 [illegible]
電話一七六番

比較は最良の撰擇法なり!!
サクラ正宗

サクラ正宗
京城明治町二丁目
山邑京城支店
電話八四一番 四五番 九四番 振替京城五七番

ストーブ各種
京城本町一丁目
輸入金物商 佐野彥商店
電話一六三番 振替口座京城一二〇番
地方よりの御注文の節は迅速に御送付申上候

葡萄酒と云へば何人も直ちに
蜂印香竄葡萄酒を
想起するは何故ぞや?
蜂印香竄葡萄酒には萬人の腦裏に徹底せる强大の特色あればなり
曰く品質精良!! 美味滋養!!
優良生葡萄酒を素とし補血强壯料を主成分として精製せる本酒は只朝夕一杯づゝにして血を增し肉を肥やし力となる!!

發賣元 東京本町 近藤利兵衛

營業品目
肥料部
蒸製骨粉、乾血、蹄角粉
星印配合肥料、細工用地骨
細工用蹄角各種膠及膠原料
石鹼部
化粧用石鹼、工業用、家庭用石鹼、浮石鹼、粉末石鹼
牛脂、椰子油、鯨油、其他
油脂類、苛性曹達、洗曹達

京城東大門外紅葉町
朝鮮肥料製造所
電話二六三五番

京城岡崎町一四番地
朝日石鹼製造所
電話二五六四番 電話九七三番 振替口座京城四〇〇番

…強に捺らす當月も比較的平穩裡に越…增し就中棉糸布類は近年稀なる活…月せり蓋し本年度當地方の米作は豫…況を呈し綿受資金は需要見るべきもの…り從て棉花資金の需要旺盛ならざ…一般經濟の振興を見る能…物は高地にありては却て豐況を除へ…られしも低地は稔實良からざるが如…も其後の天候關係及び開墾擴張より…推測せば倚より以上の減收を免れず…て一割七分の減少なりとす然れども…幸にして棉摘は稀有の好調を呈し…補し得らるべし…成績は米價の昂騰に伴ひ移出米の…十九人

●暴風雨警報（十一月十二日午後三時發）

▽陸軍特別大演習

▽自動車隊の勳功

十二日寳滿河畔北軍騎兵の奮戰

第二日（十二日）最初の衝突は筑紫に於ける騎兵隊の衝突なり一時南軍の爲めに擊退されたる北軍騎兵は更に自動車に乘れる援隊を得て敵を寳滿川右岸に追擊せり一方他の北軍騎兵の一部は筑後川の橋梁を破壞し一時南軍車馬の通行を妨げたり（十二日午前九時十分福岡にて一金谷特派員發電）

▽爆彈で橋梁破壞

十一日北軍第四十二號機の殊勳

南軍飛行機の活動目覺しく降りしきる雨と風速二十米突以上の强風を衝いて肥筑平野の上空を縱橫に飛翔して偵察と攻擊の任務に努めたり殊に福岡の敵に爆彈を投下し一時は强風の爲め行衛不明となれるも各機は無事佐賀及び久留米の根據地に歸著せり北軍の第四十三號機及び第四十號機は筑後川橋梁に爆彈を投下して其の一機は千歲橋を破壞せるも敵機四機の追擊を受けて倉皇根據地に引き返せり又小島中尉操縱後藤大尉偵察の第四十二號機は强風を衝いて果敢に佐賀方面に飛翔し不明なりし南軍右兵團の右縱隊午後一時十五分其の先頭を以て佐賀の北方一里半の地點に到著前進中なるを發見し此の日の殊勳として賞讃せられたり、北軍飛行機隊は十一日夜の月明に乘じ第四十二第四十五の兩機翼を連ねて朝日山附近の敵情を偵察せり（十二日午前九時十分福岡にて金谷特派員發電）

▽十一日の戰鬪

南軍先頭久留米平野に入る

肥筑の山川秋漸く更けて秋雨戎衣の袖に冷かなる大演習第一日（十一日）の戰況は何等主力の衝突なく南北兩軍共逐次久留米平野に向つて前進せり北軍は海蒼鐵道線路に沿ひたる田代より筑後川左岸の大城に至る線に到著宿營し南軍右兵團の主力は一氣に筑後川を渡りて左兵團と合し朝日山より水屋弓削村に亙る線を占領宿營せり然れば久留米平野の大野戰は第二日（十二日）の拂曉を期して開始さるべく「平の昔劍戟相摩せし古戰場は今し屍山血河の戰場たらんとす此の日北軍右兵團は右縱隊を博多二日市田代道に進め左縱隊を以て宇美太宰府橫隈道に向はしめ又少數の右側縱隊を福岡大浦神埼道に前進せしめ左兵團は其の右縱隊を內野を經て古井に進め左縱隊をして秋月、大城に向はしめたるが何れも定刻豫定の地點に到著し南軍と相對時して夜に入りて又南軍左縱隊の一部は七曲峠に向つて北軍右側枝隊の前進を邀擊せんとす（同上にて金谷特派員發電）

▽御野立所

十三日演習三日目の御野立所は筑紫郡席田村下臼井にて午前十時四十分大本營御發輦午後二時二十分御還幸遊ばさるべし（同上にて金谷特派員發電）

▽九州大學行幸

大元帥陛下には十二日午後二時九州帝國大學に御臨幸醫科工科兩大學の標本並に實驗室御巡覽伊藤醫科大學長服部工科大學長荒川醫學博士石原醫學博士高工學博士の御前講演を聞し召され同三時三十分大本營に御還幸遊ばされたり（十二日午後六時四十分福岡にて金谷特派員發電）

▽勅使御差遣

大元帥陛下には海江田侍從を勅使とし左の日割を以て福岡縣下の官幣大社に御差遣遊ばさる（十二日午後六時四十分福岡にて金谷特派員發電）
▲十二日箱崎宮▲十三日香椎宮▲宗像神社

▽生徒提灯行列

十二日夕刻より擧行されたる福岡市各學校生徒數萬の奉祝提灯行列は蜿蜒火龍の如く街を縱ひ大本營前にて萬歲を奉唱し菊薰る正門內には陸軍々樂隊の奏樂あり那珂川の夜繪の如く市中歡聲に滿つ（十二日午後六時四十分福岡にて金谷特派員發電）

▽勤王志士に贈位

大元帥陛下には福岡佐賀兩縣下の勤王志士其他に對し來る十五日大演習宴會當日贈位又は位階陞敍の御沙汰あらせらるゝ由（東京特電）

▽突擊逆襲、山河震ふ

北軍利あらず立花山に退却す

筑紫平野に狹霧罩めたる十二日拂曉演習第二日の戰鬪は鳥栖を中心とせる寳滿川流域に開始さる此の日北軍の井口軍司令官は鳥栖西方の群石山より東方田代福童古飯今村に亙る線に麾下の兩師團を展開し小原第五師團を軍の右翼に柴第十二師團を左翼として午前五時より

▲攻擊準備に 移り又軍の總豫備隊は寳滿川兩岸の地區に獨立野戰重砲兵第五大隊は小郡に騎兵は軍の左翼に敵を衝かんと部署し南軍大迫司令官麾下の二師團は南筑後川を渡りて水屋弓削の間に展開せる六師團と併德群石山に展開せる柴第十八師團と相呼應して鳥栖附近の敵を擊攘せんとし福田騎兵隊をして敵の左側背を衝かしめ軍の總豫備隊は宮陣村に置きたり、斯くて午前六時三十分南軍五機の飛行機未だ明けやらぬ

▲曉天に戰ふ や時こそ來つれと兩軍共に進擊し茲に一大遭遇戰は開かれたり先東寳滿川右岸に於る小倉師團（北軍）と熊本師團（南軍）の戰線には始め小倉師團の猛烈なる大突擊に次で熊本師團の逆襲あり兩軍揉みに揉んで戰ひたるが又朝日山前面より鳥栖町を挾みて進擊せる南軍久留米師團の精銳は鳥栖町北方より逐次北軍廣島師團を擊破せんとし下城村方面の中央を突破するや急を聞きたる北軍豫備隊は來援

▲波濤の如き 南軍を阻止す又久留米師團の右翼の隙を見たる北軍小原師團は軍の左翼を急進し御野立所附近に敵の右翼を包圍したり此の時南軍明石中將は敵の中央（福岡）の砲兵陣地を占領す折り柄同軍久留米師團（柴中將）の左翼亦迂廻し敵の守薄きを突き長驅小郡に進入し敵砲兵陣地を奪ふ斯て砲聲喊聲筑紫平野を掩ひたるが北軍は遂ひに利あらず立花山の線に退却南軍は之を追擊せり時に午後三時（十二日午後五時福岡にて金谷特派員發電）

▽飛機相搏ち銃劍相摩す

大元帥陛下親しく御統裁遊ばさる

天皇陛下には十二日午前六時三十分御愛馬ダップに召されつゝ英姿颯爽鳥栖附近佰根崎御野立所に御臨幸親しく兩軍の戰鬪を御統裁遊ばされたり、時しも筑紫の平野霜白くして九千部山の彼方殘月淡く櫨樹の林に朝霧深く立罩めたるさへ風情多きに加へて折柄北方寳滿山の

▲空を掠めて 北軍の飛行機鵬翼を連ねて飛翔し南軍亦西射す柳川の空に機影を現はし見る間に南軍の飛行機は一上一下卍と入り亂れ互ひに長く煙を引ける爆彈を投下しつゝ壯烈なる擲擊戰を試みたるが折柄地上には南北兩軍の散兵逐次御野立所附近に接近し先づ轟々たる

▲砲聲機關銃 の響起るよと見る間に遙かに狹霧晴れ渡りたる前面には南軍柴中將麾下の久留米師團躍進し來り北軍小原第五師團（廣島）亦之に向て前進し見る見る兩軍劍戟の簇を束ねて突擊し一大白兵戰に轉ぜんとする折しも戰鬪中止の號音下り壯觀限り無し、猶附近の白兵戰は

▲右翼包圍の 南軍 ため屢々御野立所附近に行はれたるが陛下には親しく軍を覽はせられ、御馬車にて驛に御還幸十時三十五分鳥栖驛發大本營に還幸遊ばされたり、此の日好晴にて沿道拜觀者數萬土下座を爲し居れるを見たり（十二日午後五時福岡にて金谷特派員發電）

兒玉伯爵夫人送別會

（上）餘興三曲合奏　（下）食堂に於ける兒玉夫人

●美しい紅葉山を背景に

兒玉伯夫妻、花の如き夫人連に取圍まれて記念撮影＝華かな送別會

落葉音なく散る靜かな秋の十二日午後一時から京城ホテルに於いて兒玉伯夫人の送別會が、十一年の長い年月公私共に交際の深かつた愛國婦人會の人たちによつて盛んに催された、定刻前から馬車人車を驅つて

◆晴れの姿を ホテル玄關前に現はしたのは總督夫人石塚絹子、政務總監夫人…、同夫人沈氏、李王職長官夫人閔氏、鐵道局長官夫人、大庭教子、農商工部長官夫人六子、大和田龍子、高等法院長夫人渡邊たつ子、府尹夫人金谷安子、鐵道局技師夫人櫻井つぎ子、衛戍病院長夫人宗谷俊子、大佐夫人山形八重子、山口鶴子、檢事正夫人松寺琴子、京口貞子、總督夫人吉崎はな子、園部雅子、司法部長官夫人國分餘子、李王職夫人國分俊子、韓長夫人秋山貞子、總督府技師夫人阪出雪子、鐵道局技師三宅みき子、愛婦法院長夫人城いち子、土木局長夫人持地いく子、土地調查局長夫人鈴木鈴子、バンカー夫人、エドナー嬢、伯爵夫人鉛氏、總督府醫院長夫人芳賀わか子

◆その他官民 主なる人々の夫人百二十餘名並びに同會顧問芳賀院長、相談役荻田、入江、鄕山の三氏及び鎚原廳子大橋監事等で一同の顔が揃ふと食堂脇の前庭で燃に立つ樣な美しい紅葉の築山を背景にして打揃つて伯夫妻を中央として記念撮影があり一時過ぎから、春の花が一時に咲いたやうに美しく裝飾された大食堂が開かれると流れ込むやうに著席、やがて席が定まると芳賀院長は同會顧問として起立、赤十字、愛國婦人會朝鮮本部が

◆今日の發達 を見たのは兒玉伯御夫妻の力に與つ事多く且つ此の會の中心人物として公私の御懇情を戴いてゐた御兩所と御別れするのは殘念であるが倚ほ今後に於いても十分の御援助に與かりたいといふ樣な挨拶があり之れに答ふべく兒玉伯夫妻は起立、謙遜の態度で伯が簡單に挨拶を述べ之れが終ると兒玉夫人を中心として花の如き各夫人連から美しい數多のお話が取り交はされ、二時から餘興として竹本奈良梅の義太夫盛衰記逆櫓、宮城、宮富、家村三氏の三曲合奏深山獅子などがあつて賑やかなうちにも亦愉快な送別會を了へたのは四時過ぎであつた

●晴れの仕合

勇しい少年劍士　有段者に五人掛

京城講道館主催柔道研究會第三回秋季大演武會は十二日午前九時から京城本町一丁目の演武場で開かれた、集まつた勇士は研究會員を初め東洋協會專門學校、總督府、遞信部の各武術會員、教員養成所の生徒諸氏等と別に幼年部として市內各校の小學生徒と併せ場內手狹い許りに陣取り大盛況を呈した、試合は先づ紅白兩組に分けられた幼年部から始まつた、中には頗る激しい揉合もあり數人を繼ぎ倒した勇士もあつた、何れも柔道服の

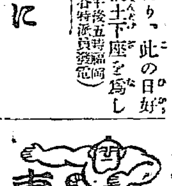
▲雄々しい扮裝 で目覺しい奮鬪振りを見せた夫れが濟むと幼年部十組の三本試合があり、次は青年組の三本勝負二十四組の取組があつたが中には隨分腕前の優れた勇士も多かつた、是れが終ると有段者たる三段渡邊福藏二段松岡靜雄兩氏の講道館投の形があり續いて會長の挨拶があつていよいよ有段者の取組に入つた、初段中林英三對同天野悅三、初段山本誠一對同清水重華、二段鹽見右源太對同永島義高、二段松岡靜雄對同中村四郎諸氏の

▲四組の仕合は 何れも甲乙なき龍攘虎搏の働き振りを示した、更に當日の呼物は三段中村四郎氏に對し初段中林英三氏の外に未だ無段ではあるが最も腕の優れた四名が交るがゝに立ち向つた五人掛りであつた、之れを最後として目出度同日の仕合は閉會した、尚當日は柿原西大門監獄典獄、金谷府尹、宮舘本町署長、朝鮮銀行、職員等多數の來賓があつた、因みに研究會では目下五段肝付宗次先生を初め左記の有段諸氏が審判員である

▲五段肝付宗次▲三段岡村邦作、渡邊福藏、鹽見右源太、田中健介、松岡靜雄、永島義高、高橋椎三郎、淸水重華、福岡志▲初段小田省吾、中村四郎

柔道研究會秋季大會

東西合併大相撲



（十二日午後八時著電）

東西合併大相撲十日目なる十二日は好天氣にて景氣よく四時半打出したるが同日故朝日山四郎右衛門の追善供養を營なみ相撲終つてのち餅撒きを爲したり

△千秋樂の勝負（○印は東京方）

勝　負　　勝　負

清瀨川（だし）殿り　五十嵐（たぐり）○荒玉
海山（つり）男島　上州山（にた）○太刀嵐
朝日嶽（より）○神錦　○朝日山（あし）小若島
駒ケ嶽（休）○敷島　兒島洋（かわず）○金の花
○朝綠（より）大砲　宮木山（つり）○駒泉
一○港（だし）初嵐　常の花（より）○日出山
寒玉子（だし）響矢
玉櫻（つり）○四國洋　時ケ嶽（休）○成瀨山
朝千鳥（だし）岩木山　○有若（きりかへし）宮城山
源氏山（より）○宇都宮
大泉（だし）○小常陸
紅葉川（つき）○時の矢
栃木山（おし）○九州山
千舟川（だし）龍ケ崎
兩國（そむさう）○荒岩
黑瀨川（まきおとし）○大錦
○西の海（ながて）二瀨川
△中入後
○大門岩（より）玉の音　國見崎（たいり）○朝風
逆鉾（ひねり）○朝日潟　大嵐（ちやうつ）○大の川
大門　休　七州山
三　役
西の森（つり）○釋迦嶽　對馬洋（なし）○大達
朝日山　分　伊勢濱

右の內大泉に小常陸は烈しく突き合ひ泉頭を下げて突き立て突き立て遂ひに突き出す▼時の矢に紅葉川は葉銳どく突きかけ時發しグラツク所を透かさず突き倒して紅葉の勝

▼九州山に栃木山 は栃木立ち上がり双筈に構へて銳どく押し進み九州が土俵を廻つて逃ぐるを追ひ詰め押切つて栃木の勝

▼荒岩に兩國 は一合して左四ツになるや否や荒の差手を取つて高無双を切り兩の勝

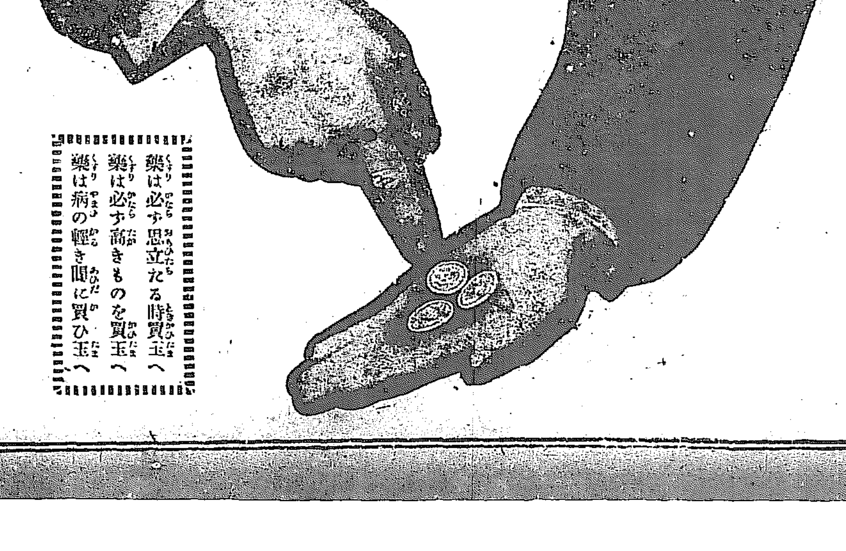
▼大錦に黑瀨川 は錦素早く二本差となり煽り立つて寄り進むを黑瀨土俵を廻りつゝ卷き落せば美事に極まつて黑瀨の勝は大喝采▼二瀨川に西の海は二瀨左差にて寄るを小手投にて西の勝▼逆鉾に朝日潟は左四ツ朝日半身になつて寄るを捨て逆の勝▼大の川に大嵐は右四ツ嵐足癖に絡れんとするを大の堪へ强引に吊り進み吊り出し打棄つて嵐の勝▼釋迦嶽に西の森は左四ツ釋迦の吊身に寄るを打棄つて西の勝▼對馬洋に大達は右四ツにて對馬の寄るを逹捻りしが利かず寄り倒して對馬の勝▼朝日山に伊勢の濱は左四ツにて鳥渡突き合ひ互ひに呼吸を圖る內水となり後双方際を窺ふのみにて動かず引分となり千秋樂を告げたり

コノ銀貨ト健胃強壯

胃が病い、胸か痛いと言ひながら、藥も飮まずに、ブラブラと、金が惜しひか、日間が惜しひか知らねども、何よりも大事の命が惜しくはあるまいか、命ありての物種と、氣附きし人は、世上に評判高い、ソレ胃活の此通り四十五錢（二週間分）程を飮んで御覧其効能は覿面

健胃劑にも種々あれども、五大軍醫が、現今の世界に知られたる藥品中、其比を見ずと言はれたる胃活こそ、眞に胃弱者の守護神

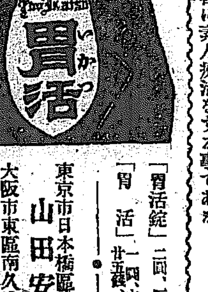
胃活は流行の口中藥にあらず、又一時の氣安め藥にあらず安心して用ふべき模範賣藥なり



歐米に行はるゝ家庭治療法

とは佐多博士の言はるゝ通り家每に常に『胃活の如き』健胃劑を貯へて置いて所謂家庭の常備藥として男も女も老人も小供も時々服用するは勿論發病の際手輕に素人療治をする事である

胃病良藥



「胃活錠」二圓、一圓、五十錢、二十錢
「胃活」一圓、六十五錢、四十五錢、廿五錢、十錢

東京市日本橋區本銀町三丁目　山田安民藥房
大阪市東區南久寶寺町二丁目　山田安民藥房
●全國各藥店にあり

女鳩
渡邊默禪

【一五八】暗い部屋

「話をしたい？、どんなことを話すんぢや。」鮎山子爵は鳩子の心を知らなかつたので、無益なことだと言はないばかりに問返した「悉ういふとは成るたけ早い方がよいがのう。」

「一遍よう聞いて見たいと思ふのでございます、姉様のお心を……何かお父様に對して不平なこともあつて、それが原因になつたのか、それとも實母様の誘惑から、そんな荒んだ心持におなんなすつのか。どちらに致しましても病源を採つて見て、その病氣相應の藥を差上げないとには、只今のお心が直るまいかと存じますので、はい。」

鳩子は胸の襟をおし秘して、態と快活に言つた。子爵は頷いた。

「對症療法か、成程お前の手で一應診察して見るもよからう。私の口から調べるとなると場合によつては手術臺に上して外科のメスもあてなければならんからのう。その前にお前が緩和劑の役目をつとめてくれゝば相互の便宜ぢや。のう、鈴木。」

「御意にございます。お腹が違ひましても流石に御姉妹。御無理もない御情愛でございまする。」

鈴木が同意したので、とにかく鳩子の爲に一日の猶豫を與へることになつた。で、鳩子は旅裝を解く間もなく、直と鈴木と一緒に住江を見舞ふことになつた。

住江はその後鈴木から、部屋を取かへては如何か、舊の位地に直つても父子に苦情のある筈はないからと再三勸められたけれども、どうぞ此儘に棄置いて下さい、御主人お二方のお歸りになるまでは、假令秀さまがお詫をなすつても此處一寸動きませぬやはり御飯焚で居たうございますと、飽までも依估地なことを言張るので、鈴木は如何するとも能きなかつた。

廊下から臺所へ出て、お炊部屋の煤ぶつた障子を開けると、二燭の電燈が暗い天井に懸つて、古新聞を貼つた壁へぼんやりとした卵色の光を漂はせてゐた。見ると住江は汚ない蒲團の上にきちんと坐つたまゝ、双の手の指を叉んで膝の上に置いて、俯目に何か考へてゐる所だつた。

「住江さん、鳩さまがお歸りになりました。御承知かな」

閾の際に立つて鈴木がいふと、ひよいと顏を擧げて

「はい。承はりました」

嗄れた聲で答へた。鳩子は堪らなくなつて、何か言はうとする鈴木をいきなり押のけるやうにして、突と部屋の中に飛込んだ。

「住江ッ！」

「あら！」

踏けかゝるやうに前に坐つた鳩子の手は、喫驚して膝行出た住江の手と、吸合ふやうに粘然と握りしめられて、二人の體は雙んで抱着かねばかりに接觸した。

「懷かしかつたわ。住江」

少時顏を見合つて、呼吸を喘ませてから、鳩子は悲しげな聲で言つて住江のげつそりした頰の憔れと、亂れた髮を、潤んだ眼で沁々と眺め入つた。住江は思餘つてぽろ〳〵と落涙しながら、鳩子の體を押出すやうにして

「まア、そちらへお坐り遊ばせ。むさくろしう厶いますから」

急に居ずまゐを直して手を突いた

「御機嫌ようお歸り遊ばせ。お父様のことは蔭ながら承はりまして、眞實に〳〵情なう存じて居りました。まアどんなに御心配遊ばしたことでせう。私し……も、もう……何とも申上げる言葉は御座いません」

平伏したまゝ、堰上げる聲を呑んだ。と見た鈴木は

「鳩さま、手前はあちらに差控へて居りますで、御寛々とお話し遊ばすやうに。お話の濟むまでは何人も通しませんで、はい」

悉う言つてぴたりと障子を閉めながら、臺所口に退いた。

齒科診療 橋本齒科醫院
南山町三丁目巴城舘通電話二九二〇
齒科醫學士 橋本清次郎

石鹸化粧品婦人小間物卸商
月本政次郎商店
京城明治町二丁目 電話一二二八番

京都 染 呉服
たまや出張店
小公町三丁目 電話一一九六

水原華城會(第三十三回俳句)
寄前白日庵瀧崖宗匠選

武藏野や見渡す限り光る露　濟月
額ふと呼ぶ玄關や桐一葉　知足
徒然に庭掃く僧や桐一葉　同人
夕映の消ゆ行く跡や天の川　華川
五位鷺や無事に渡れよ天の川　濟月
朝露に濡れても見たき心かな　松濤
養老の瀧の瀬音や今朝の露　華川
日もすがら田に立つ人や稻雀　如竹
物思ふ身や砧の亂れうち　五曉
迷ひ路を飄む砧や辿る家　華川
山里も鹿の音止むで砧かな　王水
庭先や桐の一葉に驅る猫　同人
月落ちて星の飛ぶ夜や天の川　如竹
朝霧や千里風なき芦野原　昇仙
芋の葉に殘るや曉の天の川　知足
誠心は神にも響く砧かな　秋風
出征の留守な節婦の砧かな　松濤
水音に心も沈む一葉かな　秋風
夜たきさむ音の太りや天の川　秋風
簑笠に馴れて稻田の雀かな　如竹
揃立の庭に風情の一葉かな　濟月
獨宅の人もある世に稻雀　秋風
宵の間を仕か指圖の砧かな　如竹
轉殿のそれなり更けて天の川　宙外
醉妙に選入る刹那や瞬の音　五曉
ちゝと啼く聲も燥かな稻雀　如竹

五客

絶倫の絶聯む窓や桐一葉　玉水
羅漢寺に宿りて砧聞く夜哉　秋風
天の川露普に明かす一夜哉　宙外
桐一葉落ちた盤なり牛の背　昇仙
山の端に月は流れて天の川　如竹
さなきだに淋しき夜半を砧かな　宙外

三光

人 丸窓を叩く小雨の桐一葉　如雲
地 千代八千代禮の舞や天の川　雄城
天 草刈の鎌の刃先や玉の露　如竹

追吟

虫啼や破れ壁洩るゝ行燈の灯　濤翠

新刊紹介

▲大陸婦人界(十一月號) 井上文學博士の立太子式の御話を卷頭に家庭に對する我等の希望(添田博士)家庭生活の改善(成瀬日本女子大校長)青年男女の煩悶(高島日本女子大教授)恐るべき婦人の死亡率(高田醫學士)等の外本號には特に結婚に關する諸問題を載せたり婚約とは何ぞや(工藤忠輔)婚約の精神的注意(成田良師)婚約肉體的注意(工藤武城)婚約から結婚まで(芳賀博士)及婚約の可否なる題下に小宮、三保松、小松緑以下八名の所感を發表せり猶口繪文苑其他如例(二十錢京城太平町二丁目其社)

▲九重(東京市養育院月報一八七號) 定價不詳東京市小石川區大塚辻町一八東京市養育院

▲少年の友(十一月號) 一錢五厘東京市麴町區三番町六四其社

▲婦人週報(二の四四) 四錢五厘東京市牛込區市ヶ谷田町二の一七其社

▲コニシタイムス(二四) 定價不詳東京市日本橋區本町二小西本店

▲大阪小間物商工新報(四七二) 五錢大阪市東區北久寶寺町二の一四其社

▲千代田(十月號) 十五錢東京市淺草區高原町二千代田吟社

▲學生(立太子禮奉祝號) 本號には大町桂月の立太子禮と日本及史上の皇太子欄に於ける久米博士の日本武尊、姉崎博士の聖德上宮太子、八代史料編纂係の義良親王、萩野博士の聖切御劍等立太子禮に因める好讀物の初め劍道の方法『西久保好道』勝海舟の頭を縱に振らした記上村大將等の外學生新聞裕天使正新田と足利等面白し(二十錢東京市神田區裏神保町富山房)

▲大日本新聞(三一六) 五錢東京市麴町區有樂町一ノ四其社

▲ゼ、イングリッシ、タイムス(十一月號) 十二錢東京市芝區南佐久間町一の一英語精習社

▲食物の養生(十一月號) 十三錢東京市牛込區市ヶ谷谷町五一石塚食養所

▲ツーリスト(二二) 非賣品東京市東京驛內ジャパン、ツーリスト、ビューロー

▲ゼジャパン、タイムス、スチユーデント、エヂション(六の六) 十二錢東京市日比谷公園前其社

▲日本警察新聞(三八四) 五錢東京市芝區愛宕町二の一四其社

▲角力世界(五の五三) 十五錢東京市京橋區築地二の二五其社

▲農業雜誌(十一月號) 六錢東京市麻布區本村町二一學農社

▲中央金物新報(二〇一) 月二回發行年一圓名古屋市西區幅馬町三中央金物新報社

▲英語の日本(十一月號) 十二錢東京市神田區表神保町三建文館

▲獨立公論(寒暖號) 十仙米國布哇ホノル、マーチャント街キャンベルブロック三〇號其社

▲ゼ、ユース(五の八) 十二錢東京市麴町區內幸町一の四ジャパン、タイムス學生號出版部

▲英語精習(十一月號) 十五錢東京市芝區佐久間町一の一英語五千字會

▲工友(十一月號) 京城三越吳服店の建築、朝鮮土木建築請負研究會の創立、土木建築請負業の將來(十錢京城長谷川町八四工友俱樂部)

▲櫻菊(創刊號) 十五錢東京市深川區公園一二其會

▲海友(十月號) 滿洲開發論(チース博士)及び大正四年安東貿易詳報、釜山港の商況、大連埠頭諸統計等見るべし(十五錢大連市寺內通二大連海務協會)

▲立太子禮 文部省編纂の立太子禮に關する訓話の要旨に準據して兒童にも解し得る樣平易に說明せり(五錢東京市麴町區下六番町一〇大日本國民教育會)

▲ニコ〳〵(十一月號) 皇太子殿下の御寫影を初め永りニコ〳〵寫眞十數葉如例記事には東宮殿下の御常德稱神の統一『牧野會頭』日本古代の迷信『佐々木博士』勝負中の所感『村井弦齋』等を收む(二十錢東京市麴町區有樂町三の三其俱樂部)

▲世界公論(創立七週年記念號) 本號には新內閣を評すなる題の下に大隈侯、清浦、秋元兩子爵、後藤男、三宅、遠山兩博士、小寺、犬養、早川、岡崎各代議士其他諸名士の說を載せ猶新らしき女總まくり蘆野烟香、小說眠り行く女小宮すみ子等を收む(十七錢東京市小石川區大塚窪町二四其社)

▲新日本(十一月號) 大政維新の回顧大隈侯現下の政局に對する予の感想大木遠吉等の外憲政史上に於ける大隈內閣の意義なる題に就て建部遯吾田川博士島田衆議院長上島樺知主筆の意見を發表し猶本誌獨得の世界、海外、實業人物評論の各欄如例眼かなり(三十錢東京市神田區裏神保町富山房)

●大阪より

[illegible]需給の均衡を失し益々炭價の昂騰を騰越せしめ居れり即ち需要は旺盛に[illegible]集に關し各目說よて爭奪を試み現に九州炭礦山の如きは三十人の工夫を[illegible]約三割乃至五割仲使賃約二割乃至三[illegible]なかりし北海道炭の手合頻出せるが[illegible]界の黃金時代の到來は期すべきを以[illegible]

[illegible]別左の如し
▲憲政會 百九十七人
[illegible]

[illegible]及普通刑事犯にて審理中なる長野の[illegible]當選したるを以て假令友常氏資格を失ふも補員百七名を維持し得べしと

●冷込と白帯下
▼寒さに向ふ御婦人の注意

諺にも「女の腰は火にいけよ」とある通、兎角御婦人は腰足などの冷てならぬもの又冷るのが普通とされてありますが、これは血の循環の止つた死者の體が氷の樣に冷たくなるのと同道理で畢竟血の循環が惡くなる爲です、然らば婦人に限つて何故血の循環が惡くなるかといふにそれは

▼子宮に障害

があるからで、此障害にも種々ありますが一番多いのは子宮內膜炎卽ち俗に白帯下といふ病氣で右申した樣內から冷るのが白帯下の特色ですが同時に外の寒さに逢て冷込むといふことも斯病を惹起す原因となり從つて白帯下といへば、秋から冬、卽ち是からが、最も侵され易く、又嵩じ易い

▼危險な時期

で、此時期になると多少罹らぬ婦人はない位、倘此他の原因の中で一番多いのは男子の毒を受けた場合、それから月經時の不攝生●流產、早產、產後の不注意●手淫●房事過度等故是等の事には充分注意せねばなりませむ扨次に

▼帯下の容態

はといふに前述べた通り腰足が冷ね惡寒がして熱を發し、局部痛み、內股腰の邊が痺り、尿意頻促、便通惡しく最初水樣の降物が段々濃くなり月經も強く且痛を覺へ月經時の外に出血し下腹筋張り、頭痛眩暈を起し、消化不良の爲め食慾減じて身體衰弱を來し此やうな容態が、往きつ戻りつして

▼數年十數年

も續き、其結果恐るべき不姙症を惹起して生涯子を得られぬは勿論終には大切な一命を失ふ樣な慘な場合に立至る者も少くありませぬされば前に擧げた症狀の中の一にでも該當する徵候が身にあつたら早速治療せねばなりませぬが、白帯下に就ては自分の手で行ふとの出來る完全な方法があるから態々醫師の手を煩はして恥しい思ひをせずと、家庭に居乍ら立派に癒すとが出來ます、之が所謂

▼自宅治療法

で、食物は粥、牛乳、鷄卵、スープ等消化易い物をとり急性は下腹部を氷で冷し慢性は反對に腹部を溫め、身心の安靜を保つが大切で湯治等は至極宜い併し如何に養生に手を盡しても肝心な服藥を怠つたり又は藥の撰擇を誤つたりすると折角の自宅治療も何の効もありませぬ數多い婦人藥中

▼奏效が確實

で世間の信用最も厚く誰方も安心して服用することの出來るのは現今一流の婦人科專門の大醫卅餘名から世界唯一との賞讃を得た中將湯です此藥を服用する傍ら宮壯散でよく腟部を洗ひ夜寢む時は中將球(坐藥)を挿入れ置けば藥效が一層速で大概の[illegible]東京日本橋通四津村順天堂本店及大阪堺筋大寶寺町津村順天堂支店には夫々症狀に應じて效目一層適切な加減藥があり外から容體を詳しく御申越し下さい市內は無料で配達します尙本舖發行の『婦人衞生手引』は婦人科專門の醫學士天本治先生が帯下を始婦人病一切の自宅療法其他

▼婦人の衞生

に大切な月經時の手當姙娠中の養生法、出產時の心得等を誰方も一讀すれば直に實行することの出來るやうに通俗平易を旨として親切に述べられたもので白帯下其他の婦人病に苦まるゝ者は勿論壯健な方も是非一讀すべき寶典でムいますが誰方へも

▼無代で進呈

して居りますから、御希望の婦人は、送料として郵券三錢御封入の上御遠慮なく御申越し下さい、本舖は喜んで直ちに送呈いたします。

髮をしなやかに
丈長がく
美しく房々と
漆のやうに
黑くするは
廣い世界に「タッタ一つ」
パール
煉香油
があるばかり
……とは……
パール愛用者がおつしやる
實話であります

本舖 東京 平尾銑也商店
關西代理店 大阪 平尾贊平支店

りん病
消渇で困る方多年の慢性も治癒す
自宅にて人知れず安全秘密に治癒す良藥あり只一劑を試よ切手三錢送れ其良藥と自宅療法の詳細を敎ゆ
名古屋市南かじや町 武藤亀吉

新刊書御案内
書名 著者 定價
釋宗演著 定價九〇
支那大觀 奈田眞佑 特一、二〇〇
關東洲原始掃遺 立花政一郎 三〇
黑田鴨心著 特價 一、八〇〇

宗演禪話

訂正五版 星菓天爽講話
芭蕉翁全集同 岩谷小波共著 一、三〇
ロンテローゾ死後の生命 中村古峽 一、三〇
南日恒太郎閲 清水起正著 定價 九〇〇

例解詳說 英文典新釋

村井小言 福澤榮一 一、五〇

大阪屋號書店
六〇 二六八

流經新藥 レスノリン
閉止經過四五ヶ月內ニ應用ノ目的ヲ達ス
月經流經 其作用ナルコ
他藥ニ優越ス 藥一瓶一圓送費內
地ハ十二錢海外ハ廿錢切手一割增說明書
切手添申越進呈
大阪北區曾根崎上一丁目 發行 常盤藥院
振替大阪二五〇

金泉溫泉間自動車時間
上り 一番 二番
下り 一番 二番
金泉發 … 龍宮發 … 成昌發 … 溫泉著 … 尙州發 …
金泉織居自動車支部 金泉電話四八番

大邱浦項間自動車時間
上り 浦項發 … 安康同 … 慶州同 … 阿火同 … 永川同 … 河陽同 … 大邱著
下り 大邱發 … 河陽同 … 永川同 … 阿火同 … 慶州同 … 安康同 … 浦項著
電話 浦項七番
大塚農場自動車部
大邱出張所 電話一一七番
▲小荷物運搬引受候

日本郵船仁川出帆
○大連、太沽、牛莊行
相模丸 十一月十二日 未明出帆
高砂丸 十一月廿日 未明出帆
三河丸 十二月一日 未明出帆
仁川海岸町十一丁目 電話十一番 堀回漕部

尼崎汽船仁川出帆
群山、木浦、釜山、下關、神阪行
○大有丸 十一月十八日後四時出帆
○君か代丸 十一月 日後四時出帆
○神代丸 十一月十五日後四時出帆
仁川海岸通二丁目 電話五十九番 高杉回漕部

阿波共同汽船仁川出帆
○芝罘、大連行 (關東都督府命令航路)
第十三共同丸 十一月十二日入港 十一月十三日正午出港
朝鮮鐵道主要驛にて荷客連絡輸送取扱仕候
大連にては青島行定期船接續荷客共通航船と同額運賃にて通し輸送取扱可仕候
阿波共同汽船株式會社
本町四丁目(電話一七三番)
仁川代理店 野口商會
元山代理店 春日町(電話二四〇七番) 田口回漕部
京城取次店 南大門 電話二六八・二〇七 河村運送店

大阪商船仁川出帆
○外航路所屬航路汽船の寄港地は五分前に限り接續切符を發行仕候
○群山、木浦、釜山、關門、神阪行
○安東丸 十一月廿三日後五時出
×膠州丸 十一月二十日
×天智丸 十一月十六日
○木浦、釜山、關門、郵の浦、長崎行
○信濃川丸 十一月廿日正午出帆
×信濃川丸 十二月十三日
○群山、釜山、横濱行
×膠州丸 十一月廿八日後二時出
△薩摩丸 十一月十八日
○木浦、神戸、大阪行 ×彰州丸 十一月 日 正午時出
○群山、神戸、大阪行 ○利國丸 十一月十五日後四時出
○鎭南浦、大連行 ○信濃川丸 十一月廿日後二時出 ×信濃川丸 十二月八日
○大連直行 ○大連丸 十一月廿二日正午出帆 ×福州丸 十一月八日
○鎭南浦行 △鎭南丸 十一月十五日正午出帆
○滿津、河湯行(元山出帆) △滿津丸 ○城津丸 十一月 日
○印、安平、宮島 ▲安平丸 十一月十五日後二時出 ▲宮島丸 十一月廿一日
○上海、基隆、打狗行(大連出帆) ○基隆丸 十一月廿九日後四時出 ○湖北丸 十一月十三日前六時出
御注意 本社航路は朝鮮鐵道及び南滿洲鐵道と連絡切符發賣仕候
大阪商船株式會社仁川支店
京城切符發賣所 內鮮運送會社支店
●中國四國沿岸各港船客に對し一割引を以て連絡切符發賣仕候

朝鮮郵船出帆
○全羅丸 十一月十六日
○京畿丸 十一月廿六日
○黃海丸 十一月廿三日
○咸鏡丸 十一月 日
門司より釜山各港寄港 釜山發
○鎭城丸 十一月十六日
○昌平丸 十一月十三日
○鏡城丸 十一月 日
元山發
○忠清丸 十一月廿二日
○平壤丸 十一月十三日
○第二新旭丸 十一月 日
元山發
○昌德丸 十一月 日 釜山發
○江陵丸 毎日
○漢陽丸 毎日 釜山浦項發
○三浦丸 十一月 日 釜山發
○海州丸 ○統營丸 毎日
○巨濟丸 ○慶寶丸 毎日 釜山發
○順天丸 三日目毎に 木浦發
○慶興丸 十一月十四日 木浦發
○慶興丸 十一月 日 木浦發
○公州丸 十一月十六日 木浦發
○宗信丸 十一月 日 仁川發
○江原丸 十一月十八日 仁川發
○麗水丸 十一月十七日 仁川發
○晋州丸 十一月 日 仁川發
本社 京城南大門驛前 電話長一九五二番 代理店荷客取扱店 松原運送店(電話長一七〇)